

**SAFF**

データので。

農林水産統計

Statistics of Agriculture,  
Forestry and Fisheries

**図表でみる**

**中国四国農林水産業の概要**



令和8年2月

農林水産省

中国四国農政局

## 利用上の注意

- 1 本資料は、中国四国地域における農林水産業の現状が概観できるよう、農林水産省で実施した農林水産統計調査結果から主要な統計を用い、地域・県別に図表化しています。
- 2 図表に表示した統計数値は、原則として単位未満の数値を四捨五入しているため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。
- 3 本資料に用いた農林水産統計調査結果のうち、秘密保護上統計数値を公表していない品目等がある場合、当該品目等を除いて編集しています。
- 4 今後、本資料に用いた農林水産統計調査結果の最新値又は訂正值が公表された際は、本資料を更新する予定ですが、リアルタイムで更新される仕組みではありません。このため、ご利用に当たっては、必要に応じて各ページに「資料」として記載している調査結果をご確認ください。

本資料に用いた農林水産統計調査結果の詳細は、農林水産省ホームページの「統計情報」のページでご覧いただけます。【<https://www.maff.go.jp/j/tokei/>】

### 【お問合せ先】

中国四国農政局 統計部 統計企画課

電話：（代表）086-224-4511 内線：2721、2727  
（時間外）086-224-9426

メール：support\_cs\_stat@maff.go.jp

# 図表でみる 中国四国農林水産業の概要

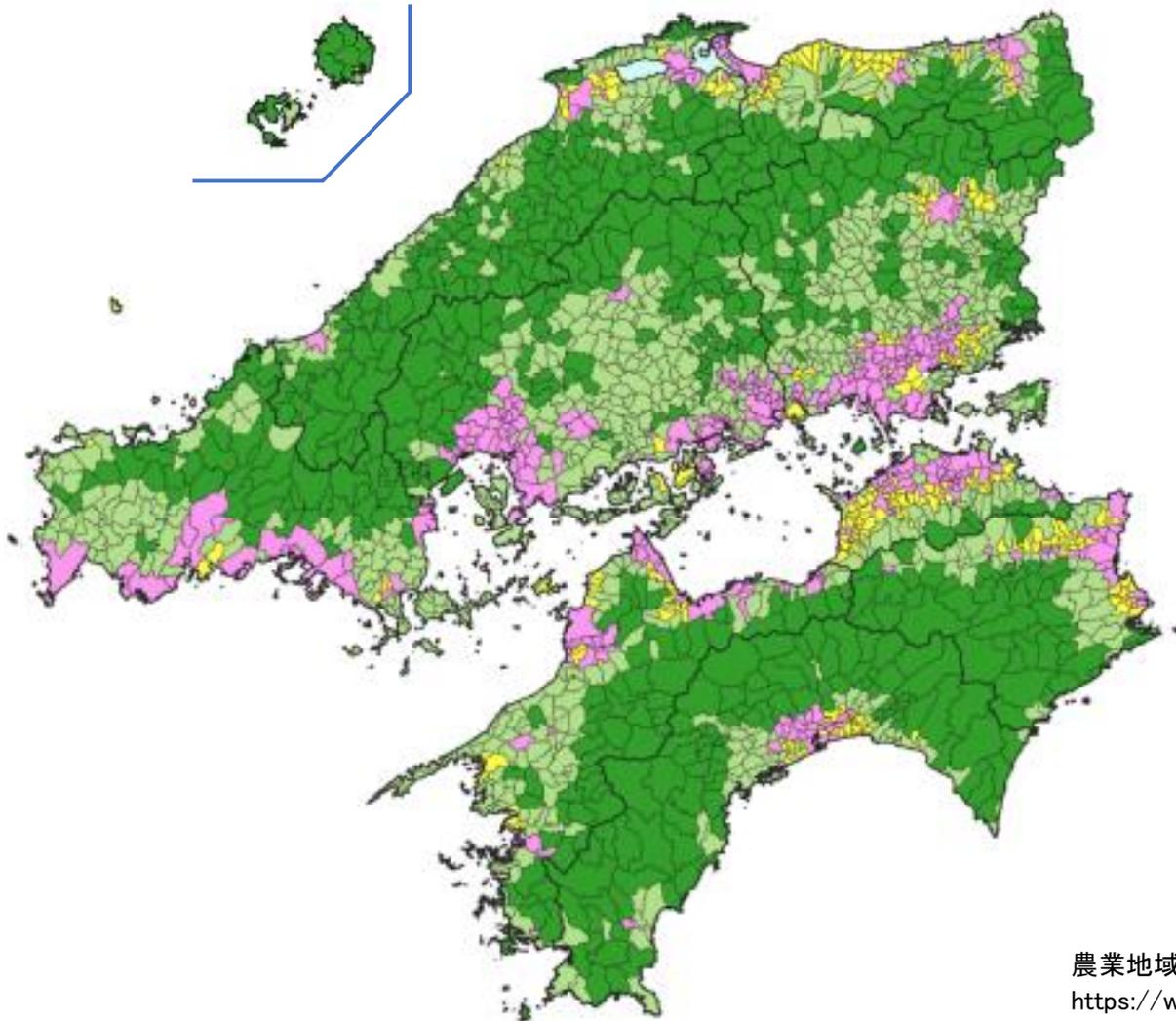
## 目 次

掲 載 項 目	ページ	最終更新日	掲 載 項 目	ページ	最終更新日
<b>A 農業構造編</b>			<b>D 農業生産編(畜産)</b>		
中国四国地域の農業地域類型区分	A-1	令和6年5月28日	畜産（乳用牛）	D-1	令和8年2月20日
耕地面積	A-2	令和6年12月20日	畜産（肉用牛）	D-2	令和8年2月20日
農業経営体	A-3	令和8年2月20日	畜産（豚）	D-3	令和6年12月20日
農業労働力	A-4	令和8年2月20日	畜産（採卵鶏）	D-4	令和6年12月20日
農業労働力（つづき）	A-5	令和8年2月20日	畜産（ブロイラー）	D-5	令和6年12月20日
集落営農	A-6	令和8年2月20日	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     令和7年は農林業センサス実施年のため、畜産統計調査を休止しており、データは未更新です。                 </div>		
<b>B 農業経営編</b>					
農業産出額	B-1	令和8年2月20日	<b>E 林業編</b>		
農業産出額（各県の部門別構成）	B-2	令和8年2月20日	林業経営体	E-1	令和8年2月20日
農業産出額（各県の主要農畜産物（上位10品目））	B-3	令和8年2月20日	林業産出額	E-2	令和7年8月5日
<b>C 農業生産編(耕種)</b>			各県における主な林産物生産量	E-3	令和7年5月9日
水稻（主食用）（中国地域）	C-1	令和8年2月20日	<b>F 水産業編</b>		
水稻（主食用）（四国地域）	C-2	令和8年2月20日	海面漁業経営体数及び漁業就業者数	F-1	令和6年12月20日
小麦（子実用）	C-3	令和8年2月20日	海面漁業経営体数（営んだ漁業種類・養殖種類別）	F-2	令和6年12月20日
大豆（乾燥子実）	C-4	令和8年2月20日	資源管理・漁場改善の取組（海面漁業）	F-3	令和6年12月20日
野菜（ねぎ）	C-5	令和8年2月20日	内水面漁業経営体数及び従事者数	F-4	令和6年12月20日
野菜（ブロッコリー）	C-6	令和8年2月20日	内水面漁業経営体数（営んだ漁業種類・養殖種類別）	F-5	令和6年12月20日
野菜（きゅうり）	C-7	令和8年2月20日	魚市場数及び年間取扱高	F-6	令和6年12月20日
野菜（なす）	C-8	令和8年2月20日	冷凍・冷蔵工場数及び従業者数	F-7	令和6年12月20日
野菜（トマト）	C-9	令和8年2月20日	水産加工工場数及び従業者数	F-8	令和6年12月20日
果樹（みかん）	C-10	令和8年2月20日	漁業産出額（海面漁業・海面養殖業）	F-9	令和7年3月28日
果樹（日本なし）	C-11	令和8年2月20日	漁業生産量（海面漁業・海面養殖業）	F-10	令和7年11月4日
果樹（かき）	C-12	令和8年2月20日			
果樹（ぶどう）	C-13	令和8年2月20日			

## 中国四国地域の農業地域類型区分

中国四国地域は、農業生産において条件不利とされる中山間農業地域が非常に多くっており、旧市区町村（昭和25年2月1日時点における市区町村）単位で見ると、中間農業地域（938市区町村）と山間農業地域（588市区町村）を合わせた、中山間農業地域（1,526市区町村）が全体の約7割を占めています。

旧市区町村ごとの農業地域類型区分(令和5年改訂)



農業地域類型区分別旧市区町村数

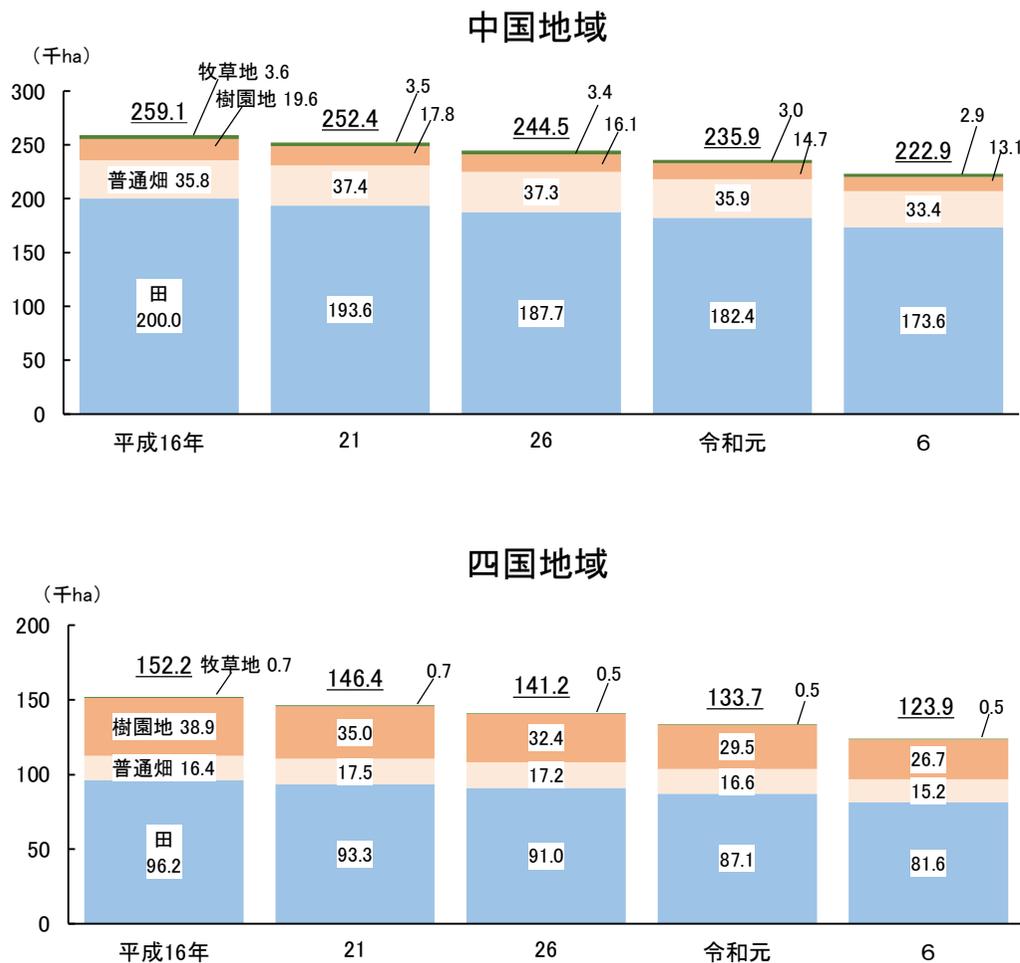
計	2,166 (100.0%)
都市的地域	378 (17.5%)
平地農業地域	262 (12.1%)
中間農業地域	938 (43.3%)
山間農業地域	588 (27.1%)

農業地域類型についての詳しい解説は、以下のURLをご覧ください。  
[https://www.maff.go.jp/j/tokei/chiiki\\_ruikei/setsume.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/chiiki_ruikei/setsume.html)

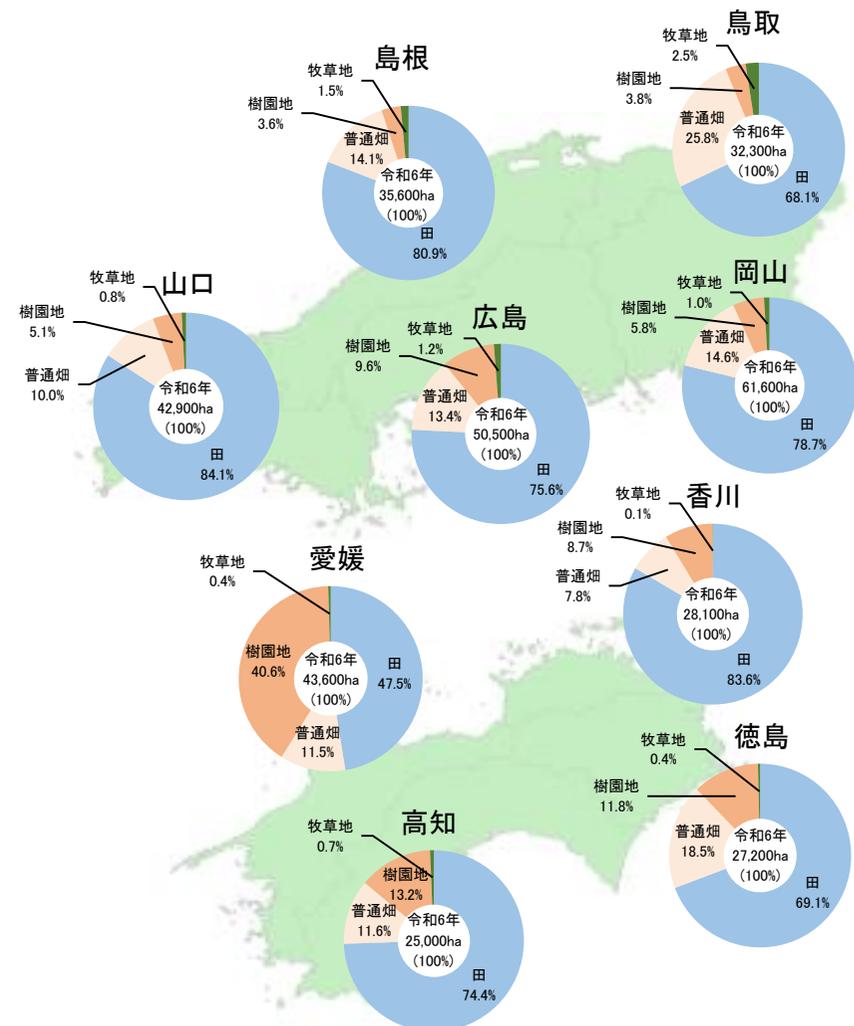
# 耕地面積

中国四国地域における耕地面積は、耕作放棄、宅地・道路への転用等により減少傾向が続いており、令和6年は20年前（平成16年）に比べ、中国地域では14.0%、四国地域では18.6%それぞれ減少しています。  
 耕地種類別の割合をみると、中国地域では田が多く、四国地域では樹園地が比較的多いのが特徴です。

耕地種類別面積の推移



県別の耕地種類別面積割合



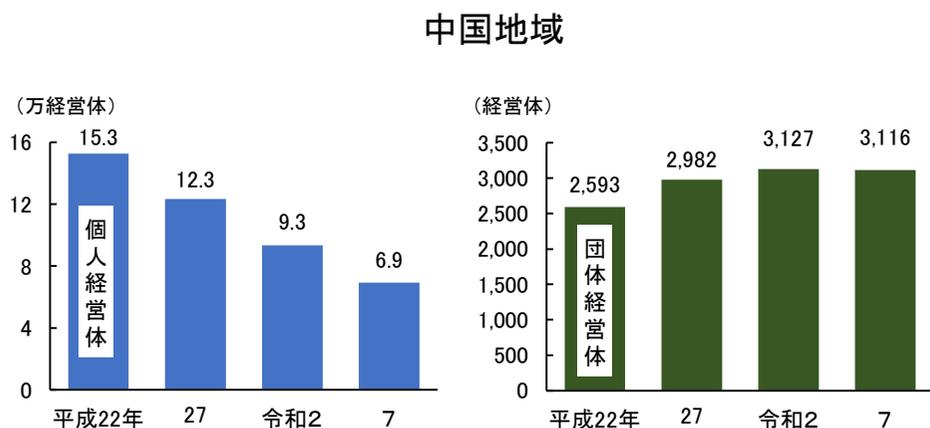
資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

# 農業経営体

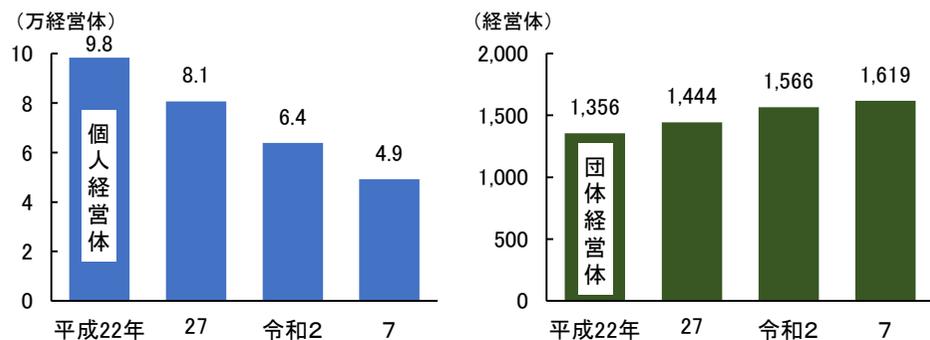
中国四国地域における個人経営体は、後継者不足に伴う廃業等のため減少傾向となっており、令和7年は15年前（平成22年）に比べ、中国地域では54.7%、四国地域では50.0%それぞれ減少しています。

一方、会社法人・農事組合法人などの団体経営体は増加傾向となっており、令和7年は15年前に比べ、中国地域では20.2%、四国地域では19.4%それぞれ増加しています。

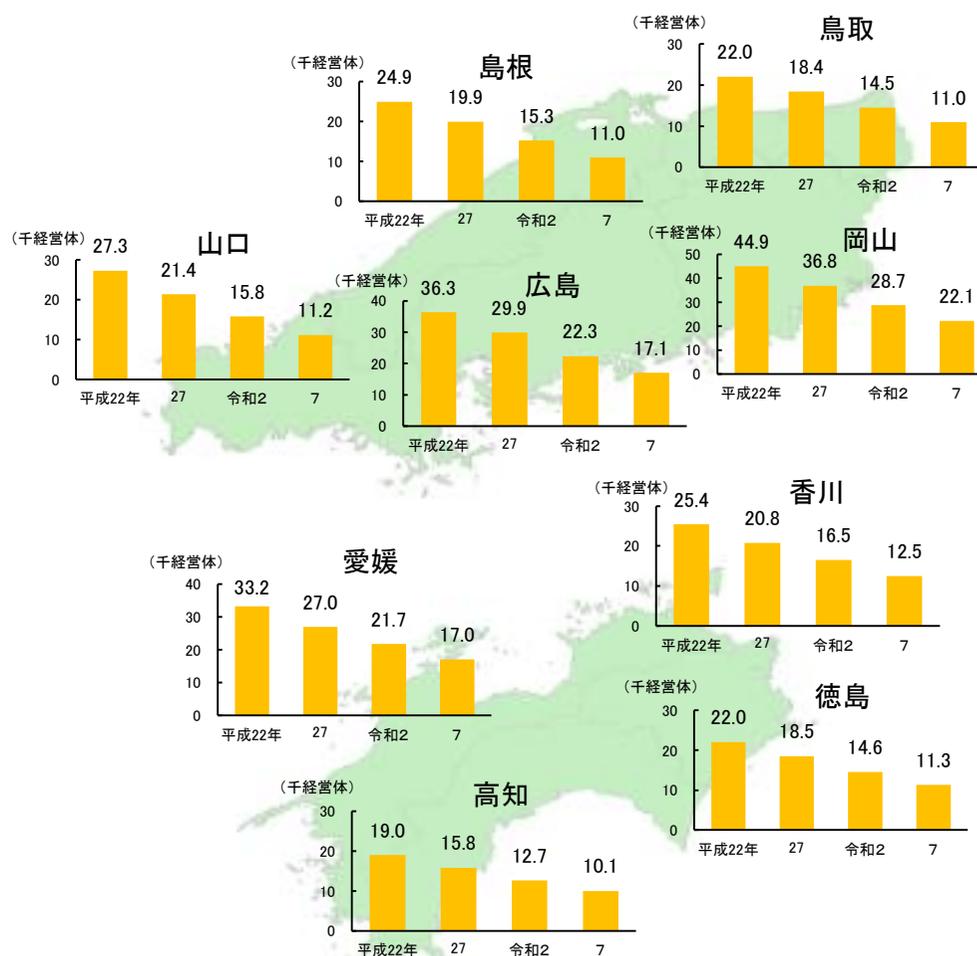
農業経営体数の推移



四国地域



県別の農業経営体数の推移

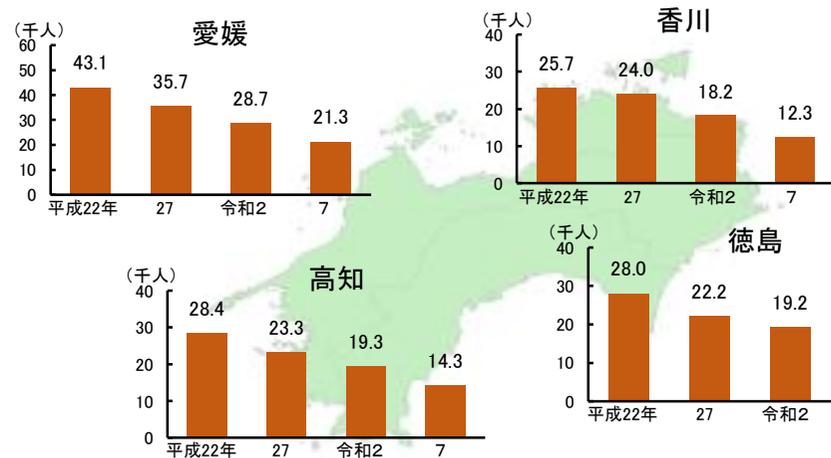
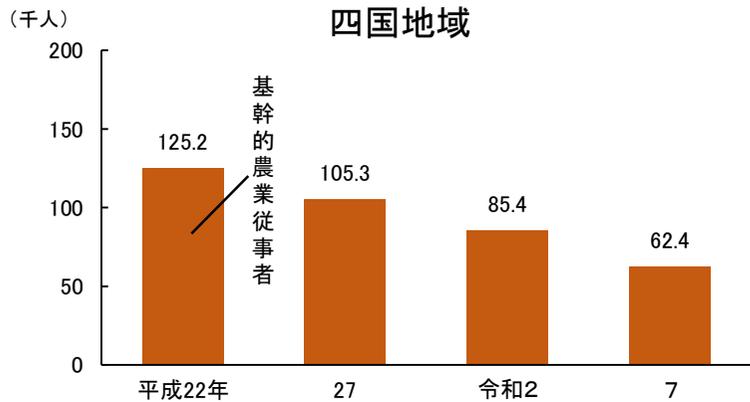
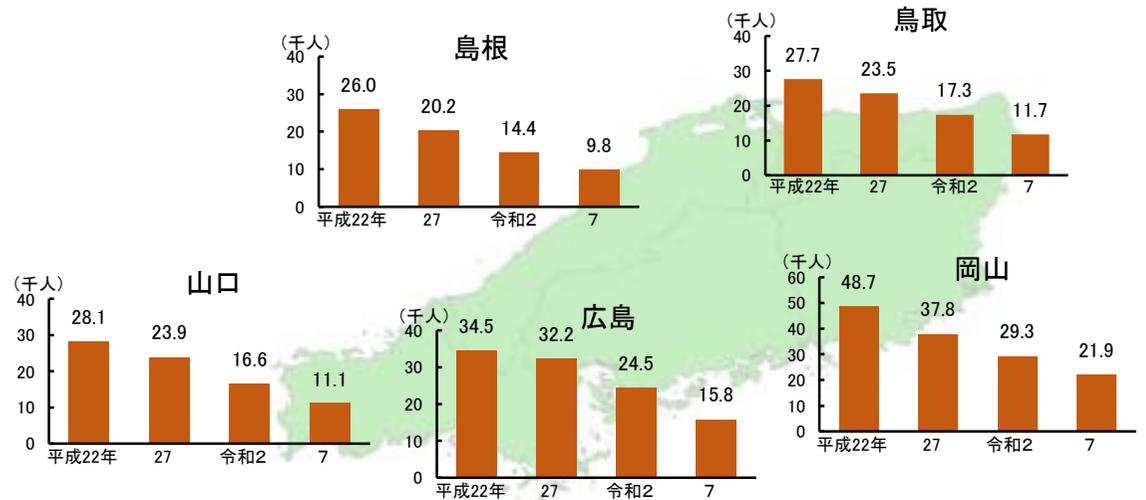
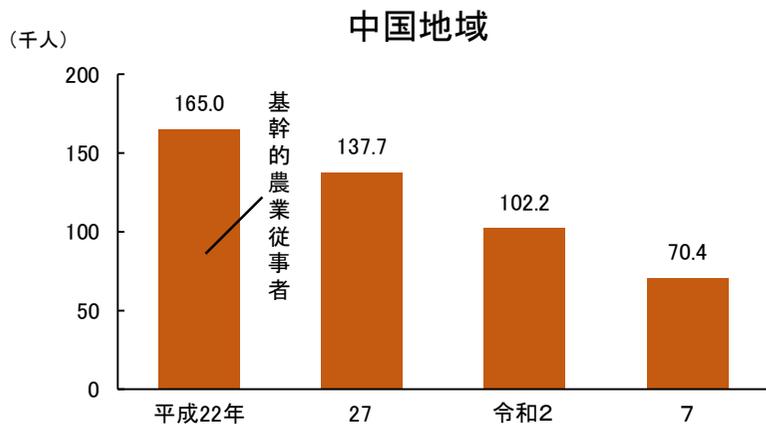


# 農業労働力

中国四国地域における個人経営体（平成22年は販売農家）の基幹的農業従事者は、後継者不足等のため減少傾向となっており、令和7年は15年前（平成22年）に比べ、中国地域では57.3%、四国地域では50.1%それぞれ減少しています。

基幹的農業従事者数の推移

県別の基幹的農業従事者数の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

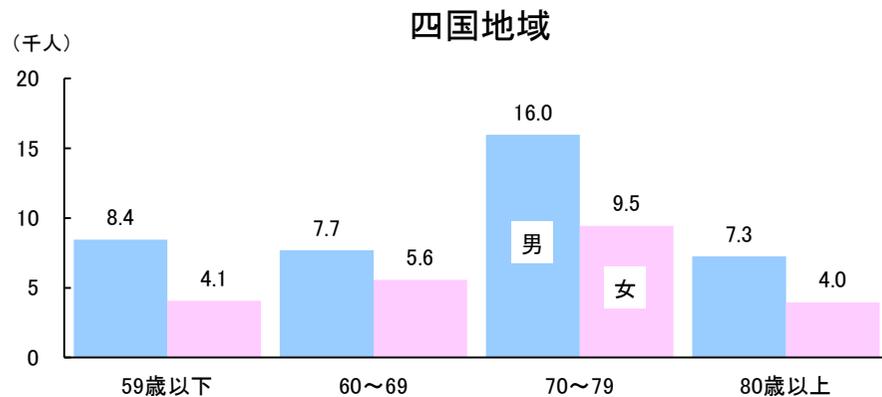
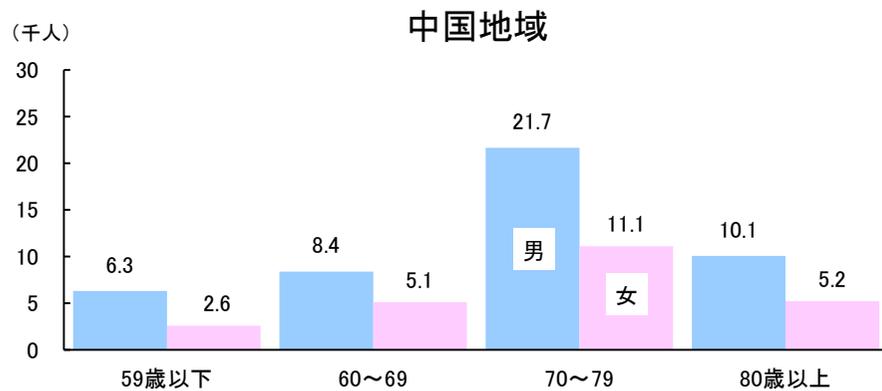
注：平成22年は「販売農家」、27年以降は「個人経営体」の数値です。

# 農業労働力（つづき）

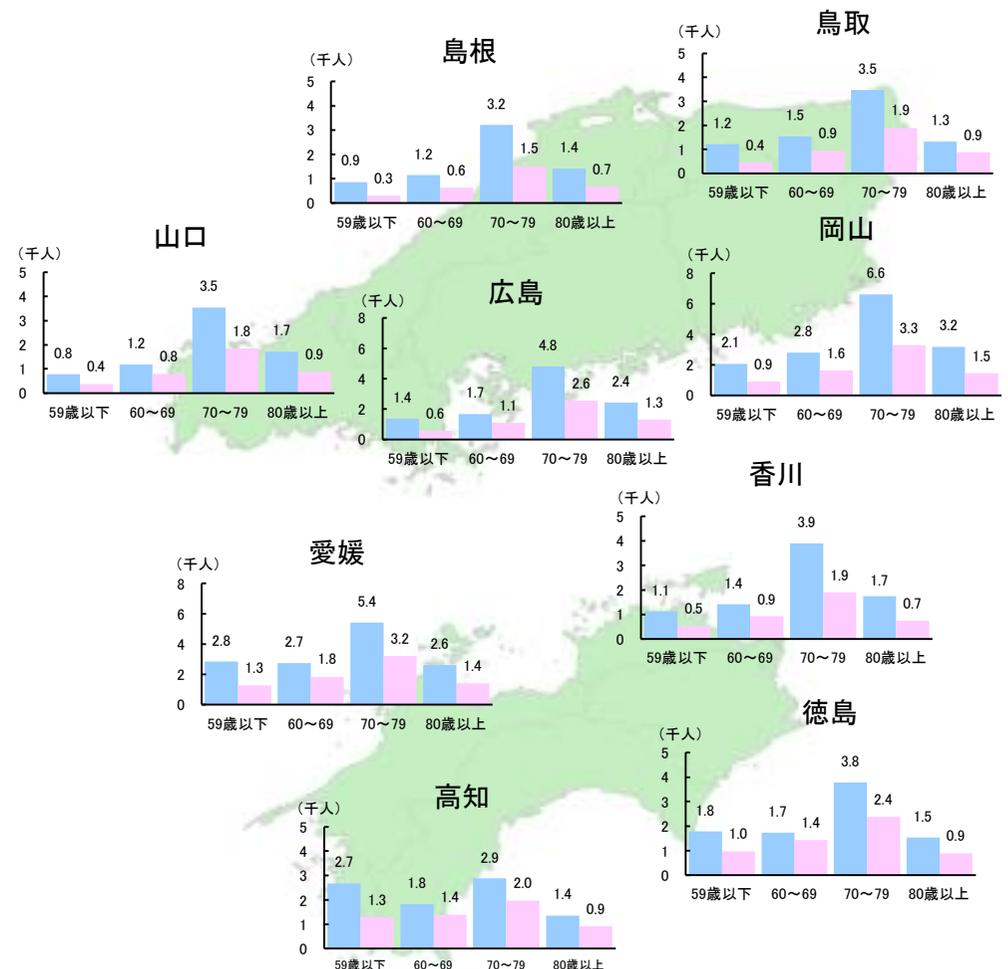
中国地域における令和7年の基幹的農業従事者（個人経営体）を年齢階層別にみると、男女ともに70～79歳の階層が最も多く、59歳以下の階層が最も少なくなっています。

四国地域では、男女ともに70～79歳の階層が最も多く、80歳以上の階層が最も少なくなっています。

男女別年齢階層別 基幹的農業従事者数(令和7年)



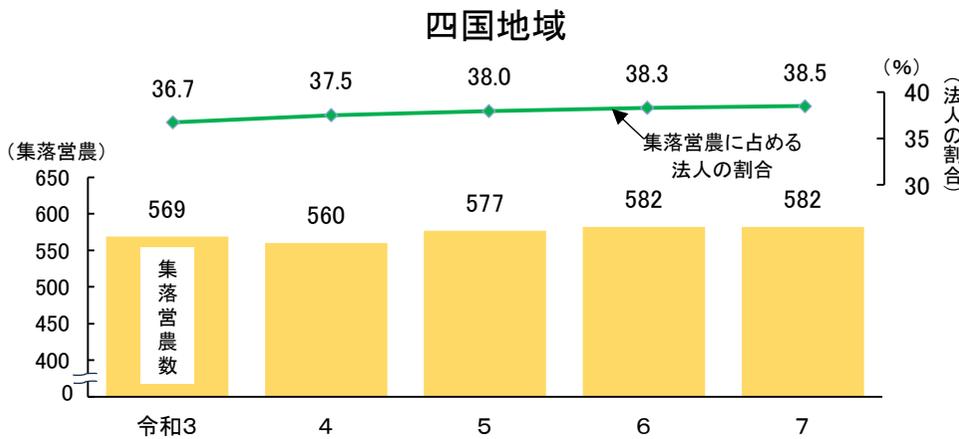
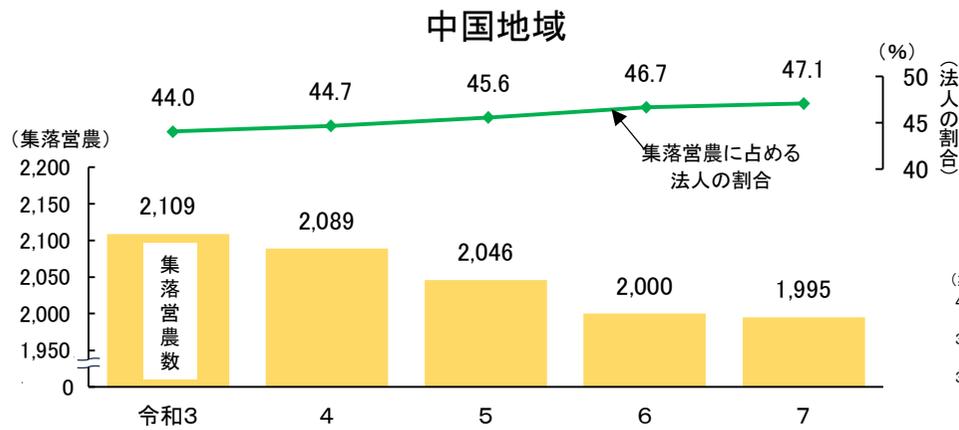
県別の男女別年齢階層別 基幹的農業従事者数(令和7年)



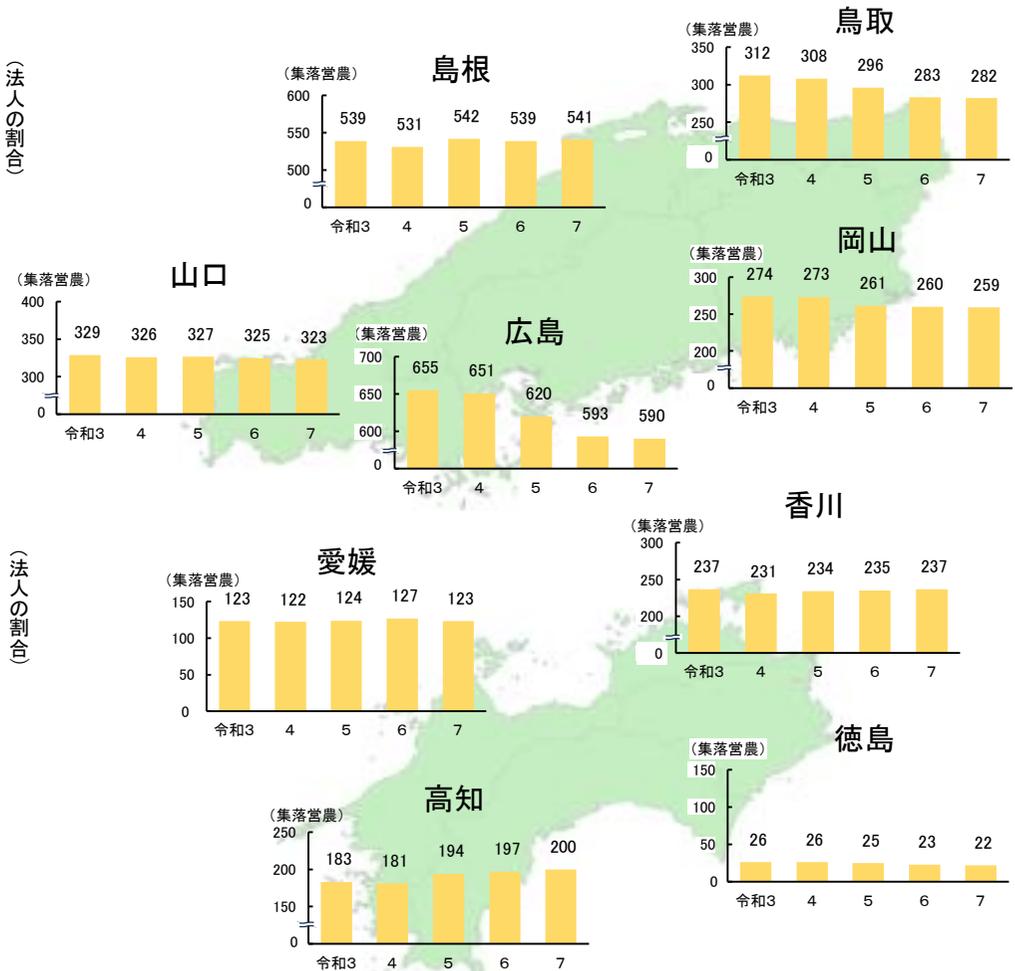
# 集落営農

中国四国地域における集落営農数は、中国地域全体では年々減少しており、四国地域では概ね同水準で推移しています。集落営農に占める法人の割合は、両地域とも上昇傾向となっています。

集落営農数の推移



県別の集落営農数の推移

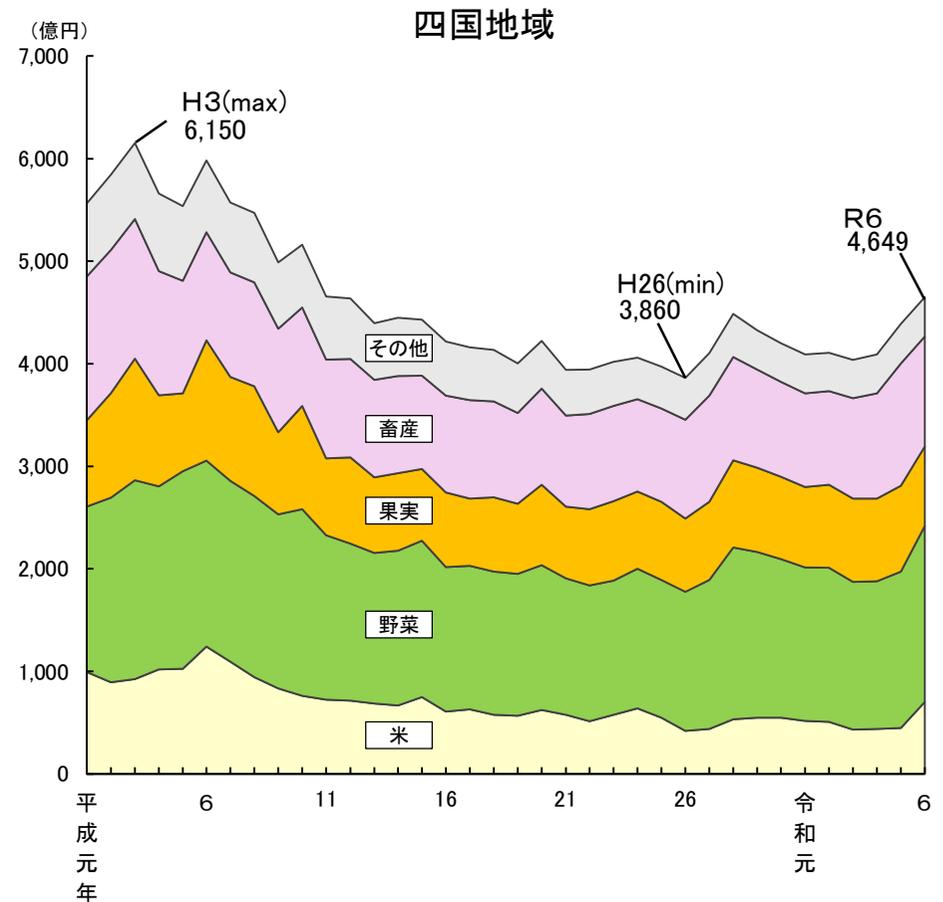
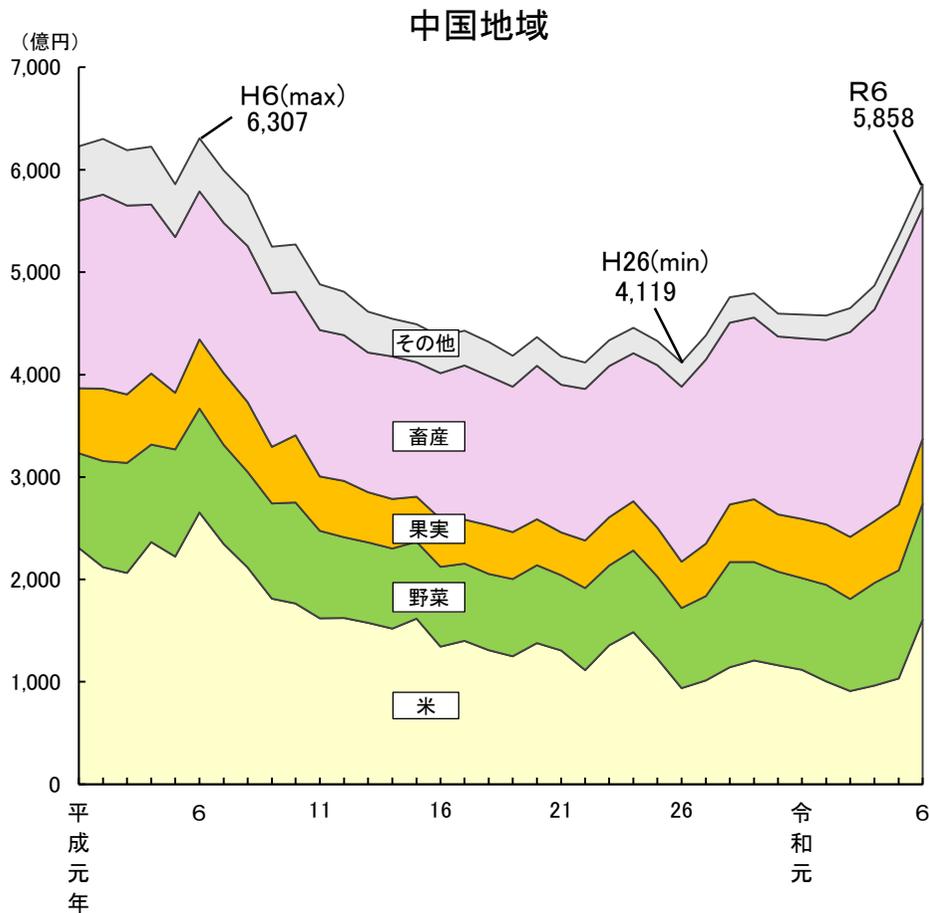


# 農業産出額

中国地域における農業産出額は、平成6年以降は概ね減少傾向で推移していましたが、近年は増加傾向となっており、令和6年の総額は5,858億円となっています。

四国地域における農業産出額は、平成3年以降は概ね減少傾向で推移していましたが、近年は増加傾向となっており、令和6年の総額は4,649億円となっています。

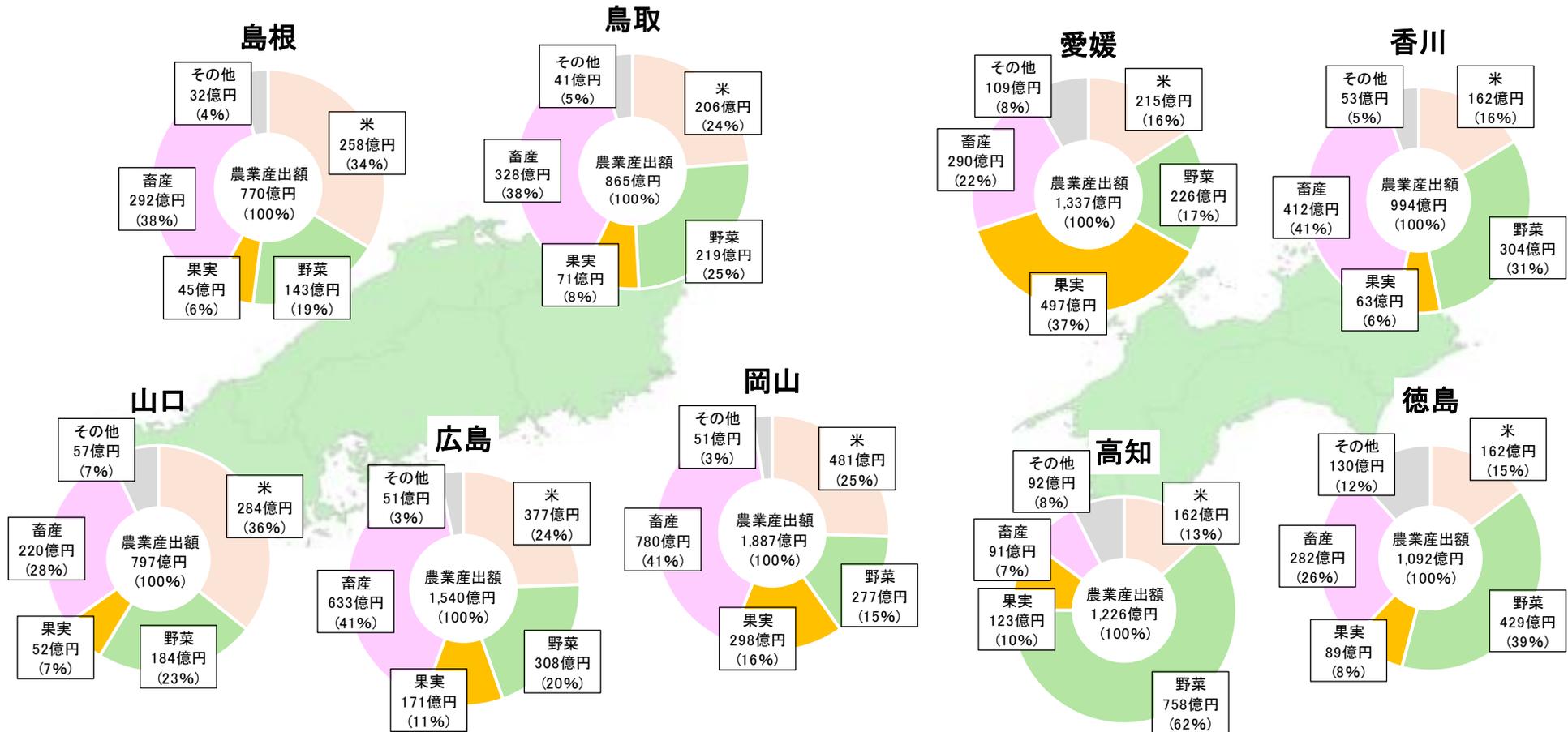
農業産出額の推移



## 農業産出額（各県の部門別構成）

農業産出額を主な部門別にみると、中国地域では「畜産」「米」「野菜」の部門が多く、四国地域では「野菜」「畜産」「果樹」の部門が多くなっています。

各県における産出額の主な部門別構成(令和6年)



資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」

注：「その他」は、「米」、「野菜」、「果実」、「畜産」以外をまとめたものです。

## B 農業経営編

# 農業産出額（各県の主要農畜産物（上位10品目））

農業産出額は各県それぞれ特徴があり、中国地域の5県、徳島県及び高知県では「米」、香川県では「鶏卵」、愛媛県では「みかん」が最も多くなっています。（赤書きは、全国順位が10位以内となった品目です。）

### 各県における主要農畜産物(上位10品目)の産出額(令和6年)

品目	産出額	全国順位
計	770億円	41位
1 米	258億円	32位
2 生乳	102億円	14位
3 肉用牛	94億円	23位
4 鶏卵	37億円	33位
5 豚	35億円	33位
6 ぶどう	29億円	12位
7 トマト	15億円	37位
8 プロイラー	14億円	34位
9 ほうれんそう	13億円	22位
10 きゅうり	10億円	32位

品目	産出額	全国順位
計	865億円	36位
1 米	206億円	36位
2 プロイラー	111億円	7位
3 生乳	83億円	19位
4 肉用牛	71億円	29位
5 日本なし	55億円	3位
6 豚	49億円	29位
7 すいか	44億円	4位
8 ねぎ	35億円	15位
9 ブロccoli	27億円	9位
10 トマト	18億円	34位

品目	産出額	全国順位
計	1,337億円	28位
1 みかん	222億円	3位
2 米	215億円	35位
3 豚	144億円	17位
4 鶏卵	55億円	28位
5 生乳	39億円	30位
6 切り枝	35億円	2位
7 さといも	31億円	3位
8 いよかん	29億円	1位
9 いちご	26億円	22位
10 トマト	25億円	28位

品目	産出額	全国順位
計	994億円	34位
1 鶏卵	179億円	16位
2 米	162億円	39位
3 ブロccoli	68億円	2位
4 肉用牛	67億円	31位
5 生乳	54億円	25位
6 プロイラー	54億円	14位
7 いちご	54億円	11位
8 レタス	37億円	8位
9 ひな (他都道府県販売)	29億円	5位
10 みかん	27億円	14位

品目	産出額	全国順位
計	797億円	40位
1 米	284億円	29位
2 鶏卵	65億円	26位
3 肉用牛	47億円	34位
4 プロイラー	45億円	18位
5 豚	29億円	34位
6 ねぎ	27億円	22位
7 いちご	25億円	23位
8 生乳	19億円	41位
9 みかん	17億円	18位
10 トマト	14億円	39位

品目	産出額	全国順位
計	1,540億円	24位
1 米	377億円	24位
2 鶏卵	289億円	6位
3 豚	151億円	15位
4 肉用牛	82億円	25位
5 生乳	69億円	24位
6 ねぎ	55億円	9位
7 トマト	45億円	16位
8 ぶどう	40億円	6位
9 みかん	34億円	10位
10 プロイラー	24億円	25位

品目	産出額	全国順位
計	1,887億円	21位
1 米	481億円	19位
2 鶏卵	335億円	3位
3 ぶどう	210億円	3位
4 生乳	145億円	9位
5 プロイラー	116億円	6位
6 肉用牛	113億円	22位
7 もも	58億円	4位
8 豚	41億円	32位
9 トマト	25億円	27位
10 ひな (他都道府県販売)	16億円	11位

品目	産出額	全国順位
計	1,226億円	32位
1 米	162億円	38位
2 なす	140億円	1位
3 にら	110億円	1位
4 しょうが	96億円	1位
5 みょうが	96億円	1位
6 きゅうり	75億円	6位
7 ビーマン	59億円	4位
8 プンタン	35億円	1位
9 ししとう	32億円	1位
10 トマト	28億円	23位

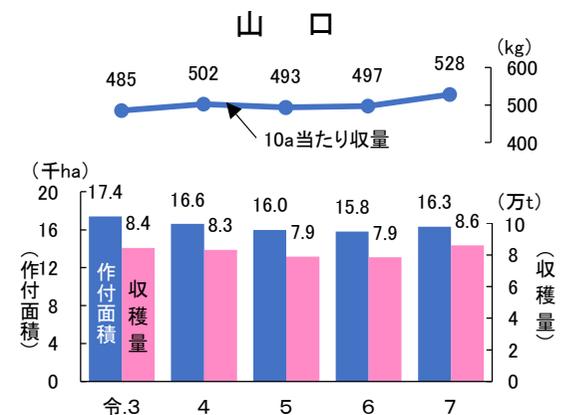
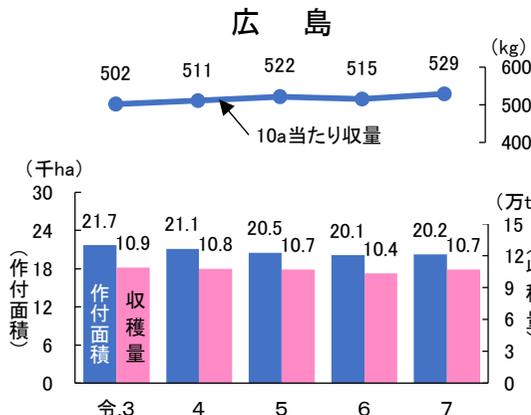
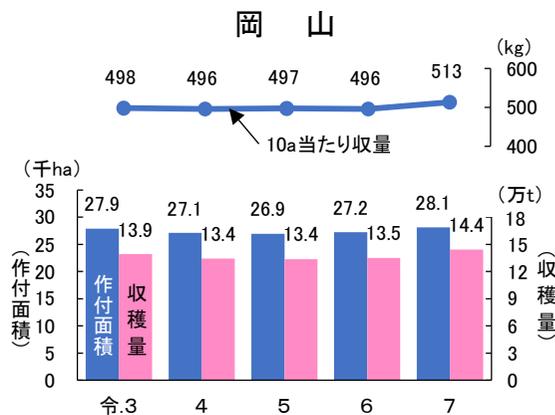
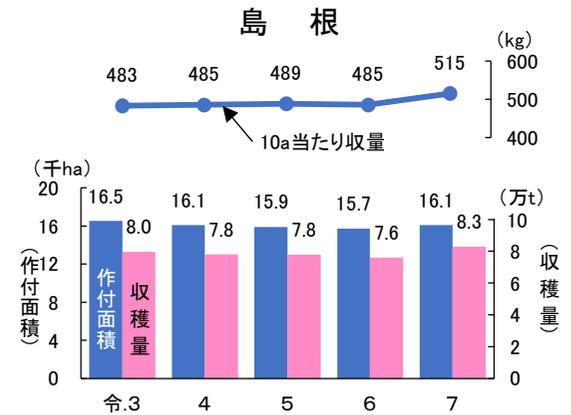
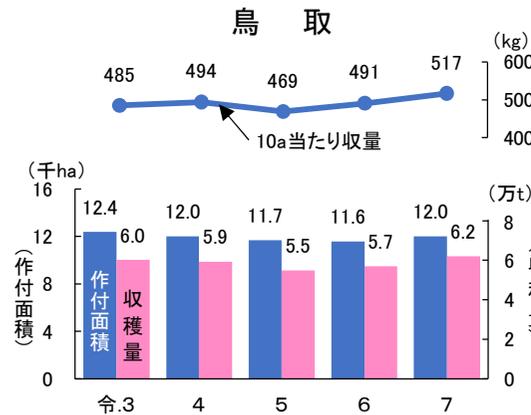
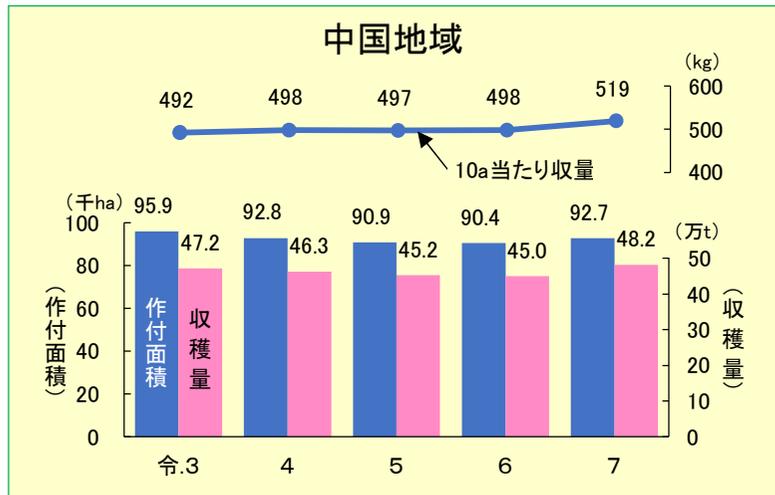
品目	産出額	全国順位
計	1,092億円	33位
1 米	162億円	40位
2 にんじん	96億円	2位
3 プロイラー	93億円	10位
4 肉用牛	76億円	27位
5 かんしょ	73億円	5位
6 ブロccoli	48億円	5位
7 豚	45億円	31位
8 いちご	31億円	18位
9 生乳	30億円	35位
10 鶏卵	27億円	34位

C 農業生産編(耕種)

# 水稻(主食用) (中国地域)

中国地域の水稻(主食用)の作付面積は、近年減少傾向で推移していましたが、令和7年産は新規需要米や加工用米等からの転換等により、増加しました。10a当たり収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)も増加したことから、令和7年産の収穫量(注)も増加しました。

作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移



注： 収穫量は、作付面積(主食用)に生産者が使用しているふるい目幅(各県ごとに過去5か年に使用した割合が最も多かった目幅)で選別した場合の10a当たり収量を乗じて算出した玄米の重量です。中国地域の具体的なふるい目幅は、島根県が1.90mm、その他の各県は1.85mmです。

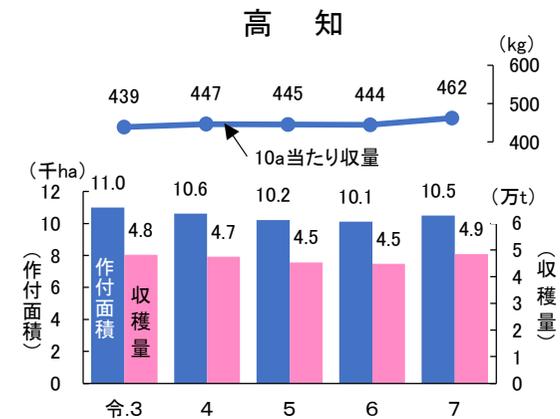
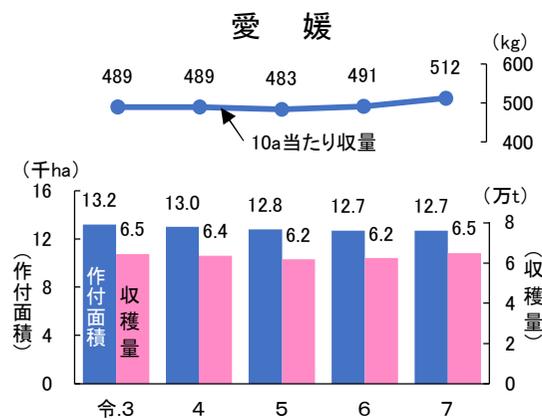
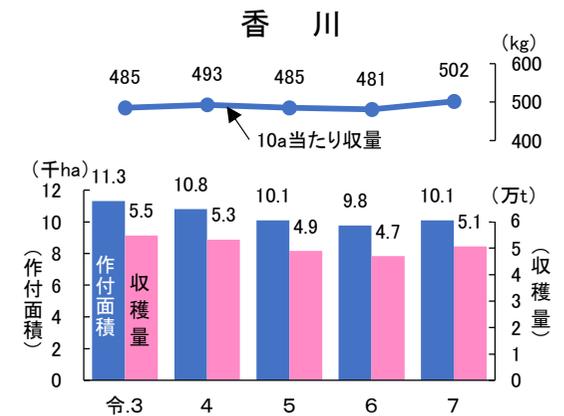
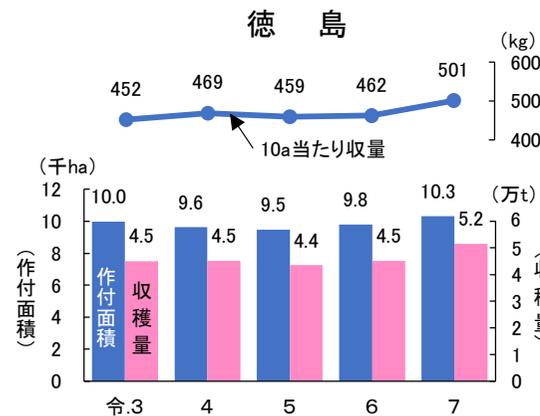
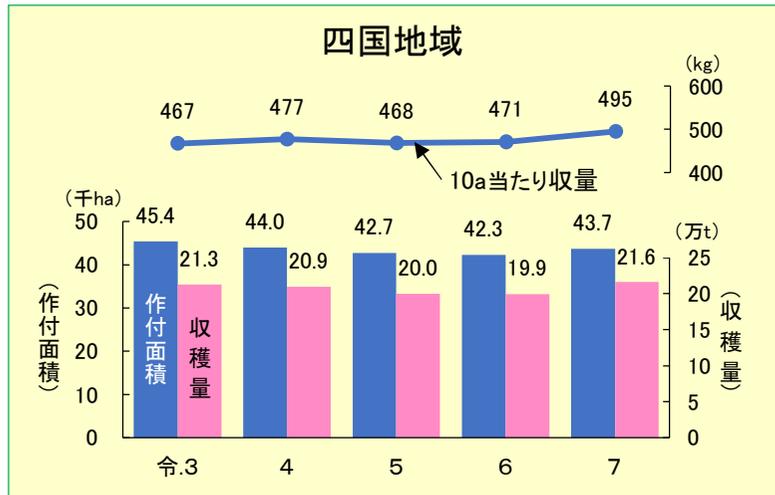
資料：農林水産省「作物統計調査」

C 農業生産編(耕種)

# 水稻(主食用) (四国地域)

四国地域の水稻(主食用)の作付面積は、近年減少傾向で推移していましたが、令和7年産は新規需要米や加工用米等からの転換等により、増加しました。10a当たり収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)も増加したことから、令和7年産の収穫量(注)も増加しました。

作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移



注： 収穫量は、作付面積(主食用)に生産者が使用しているふるい目幅(各県ごとに過去5か年に使用した割合が最も多かった目幅)で選別した場合の10a当たり収量を乗じて算出した玄米の重量です。四国地域の各県の具体的なふるい目幅は、4県とも1.80mmです。

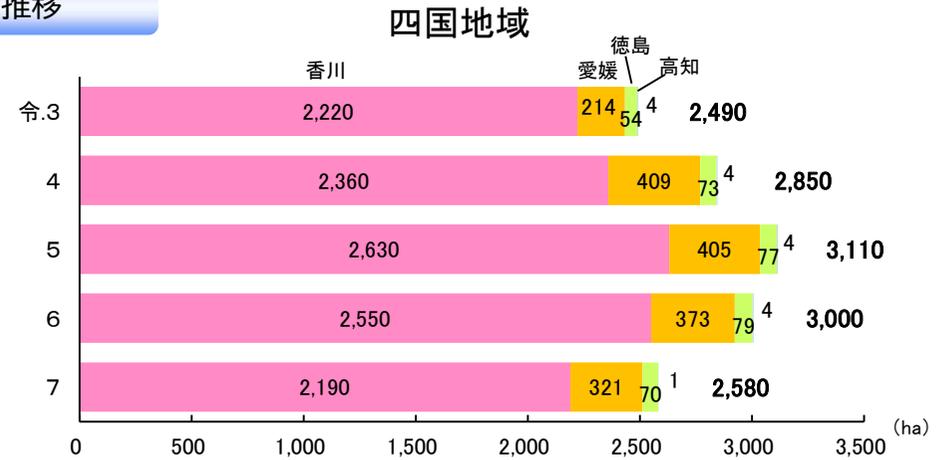
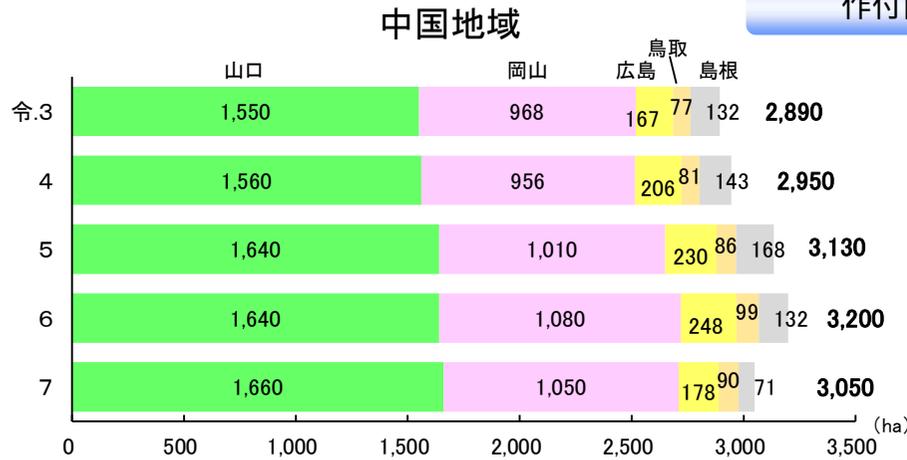
資料：農林水産省「作物統計調査」

## C 農業生産編(耕種)

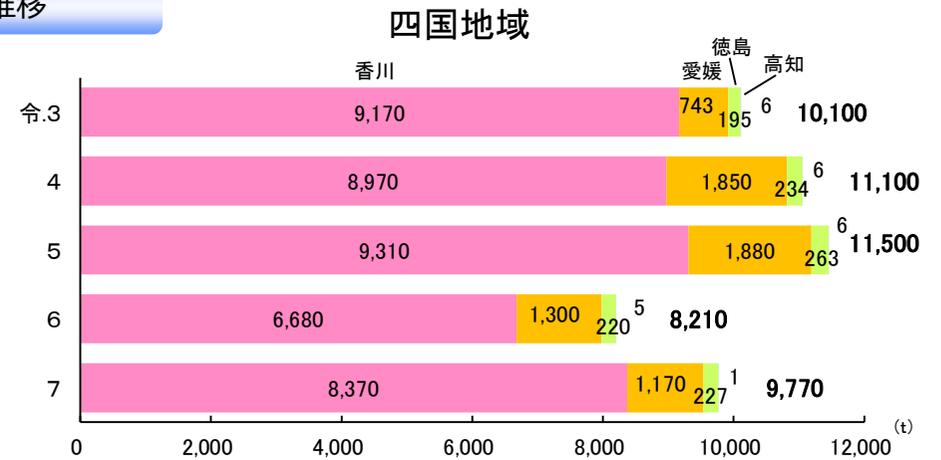
# 小麦(子実用)

小麦(子実用)の作付面積は、近年増加傾向で推移していましたが、中国地域では令和7年産において、四国地域では6年産において、減少に転じました。中国地域は山口県及び岡山県が、四国地域は香川県が大半を占めています。収穫量は、気象条件の影響を受けやすいため、年産・地域別に増減が見られます。

### 作付面積の推移



### 収穫量の推移



## C 農業生産編(耕種)

# 大豆（乾燥子実）

大豆（乾燥子実）の作付面積は、中国地域では岡山県が多く、山口県、島根県、鳥取県、広島県の順となっています。四国地域では愛媛県が多くなっています。

収穫量は、中国地域では島根県、山口県、鳥取県、岡山県、広島県の順となっています。四国地域では愛媛県が多くなっています。

### 作付面積の推移



### 収穫量の推移

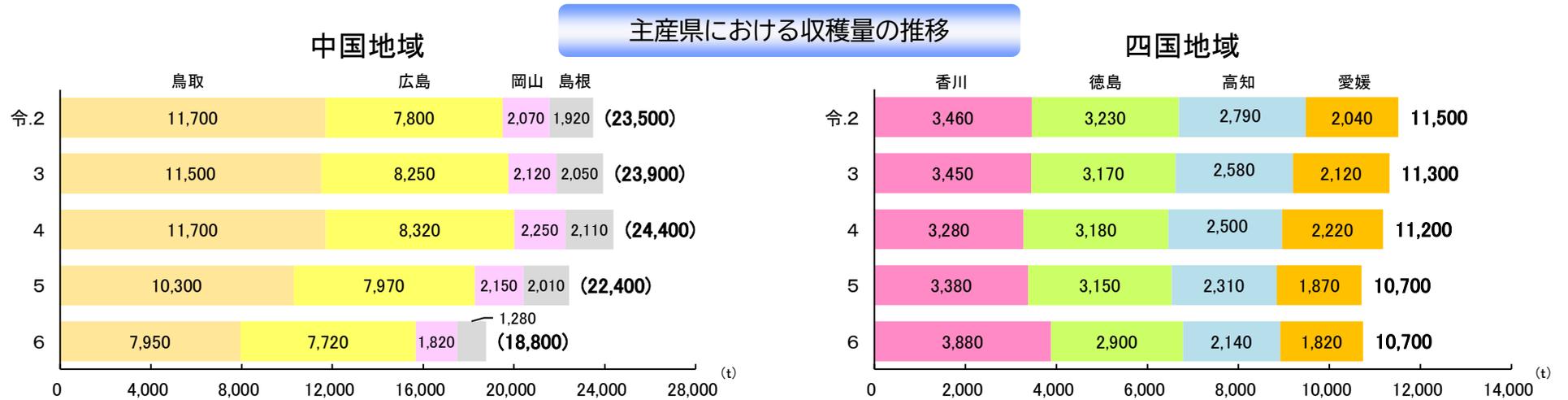
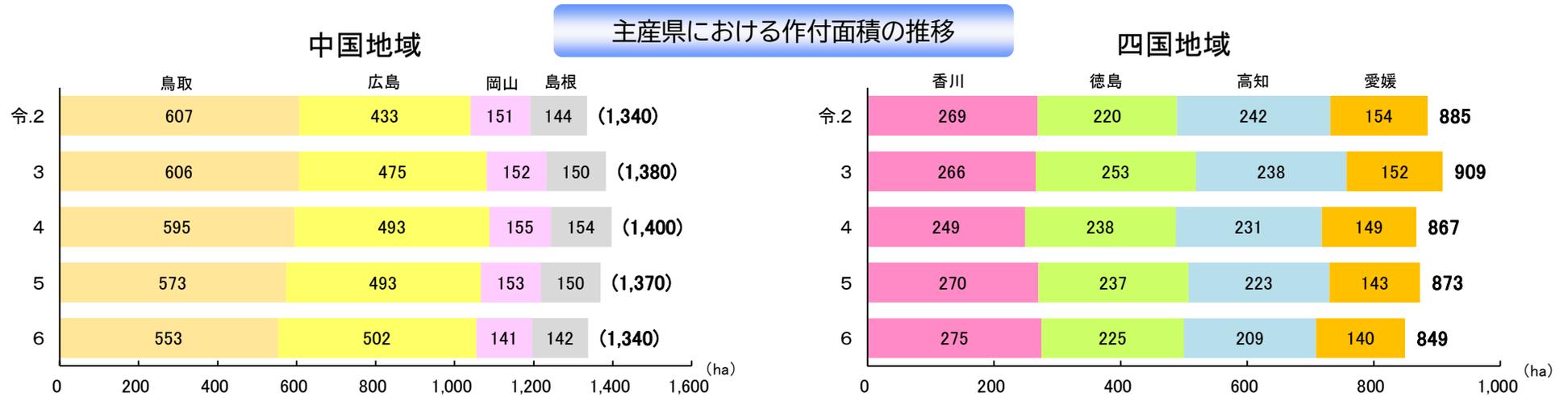


## C 農業生産編(耕種)

# 野菜(ねぎ)

ねぎの作付面積は、中国地域では鳥取県、広島県が多く、島根県、岡山県がほぼ同水準となっています。四国地域では香川県、徳島県、高知県、愛媛県の順となっています。

収穫量は、中国地域では鳥取県、広島県が多く、岡山県、島根県の順となっています。四国地域では香川県、徳島県、高知県、愛媛県の順となっています。



中国四国地域の主産県調査対象：鳥取・島根・岡山・広島・徳島・香川・愛媛・高知(8県)

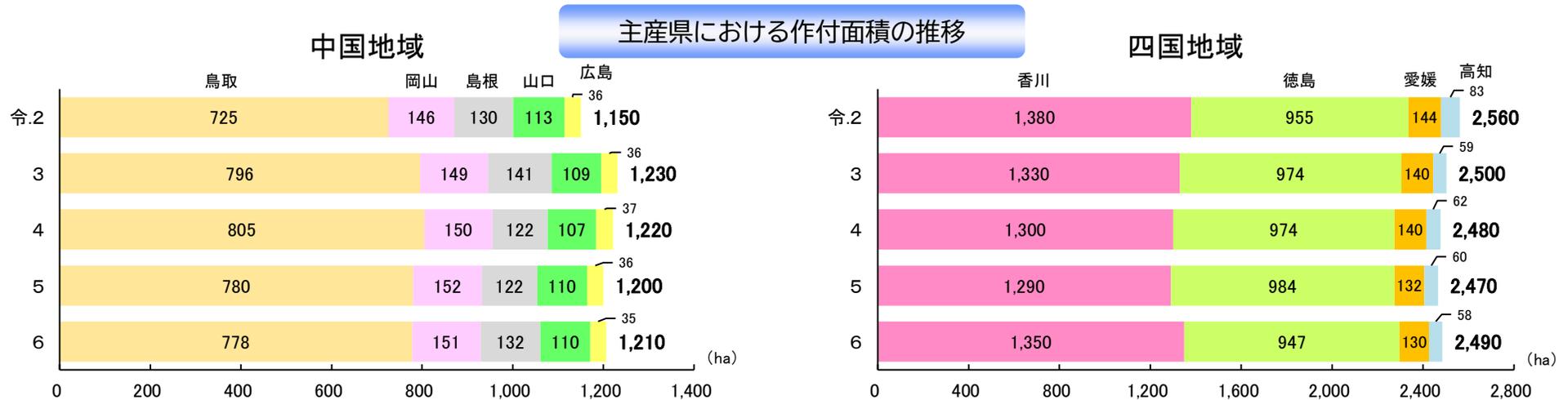
注： グラフ中、中国地域・四国地域の計の表示に括弧を付しているものは、該当する公表値がないため、各主産県値を積み上げた参考値を記載しました。  
(以下、野菜及び果樹の資料について同様です。)

## C 農業生産編(耕種)

# 野菜(ブロッコリー)

ブロッコリーの作付面積は、中国地域では鳥取県が多く、岡山県、島根県、山口県、広島県の順となっています。四国地域では香川県、徳島県が多く、愛媛県、高知県の順となっています。

収穫量は、中国地域では鳥取県が多く、岡山県、島根県、山口県、広島県の順となっています。四国地域では香川県、徳島県が多く、愛媛県、高知県の順となっています。



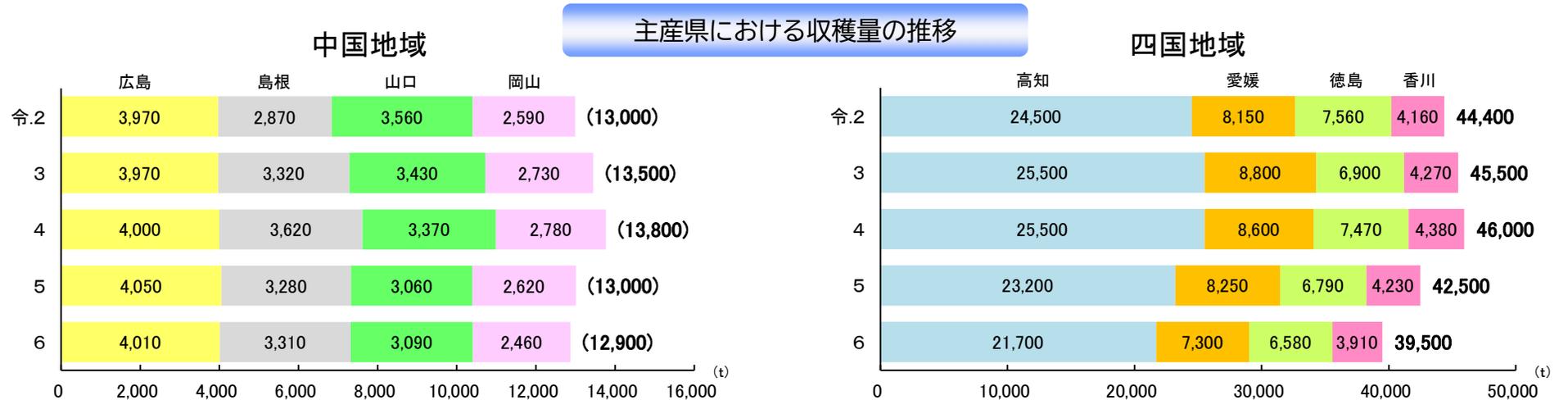
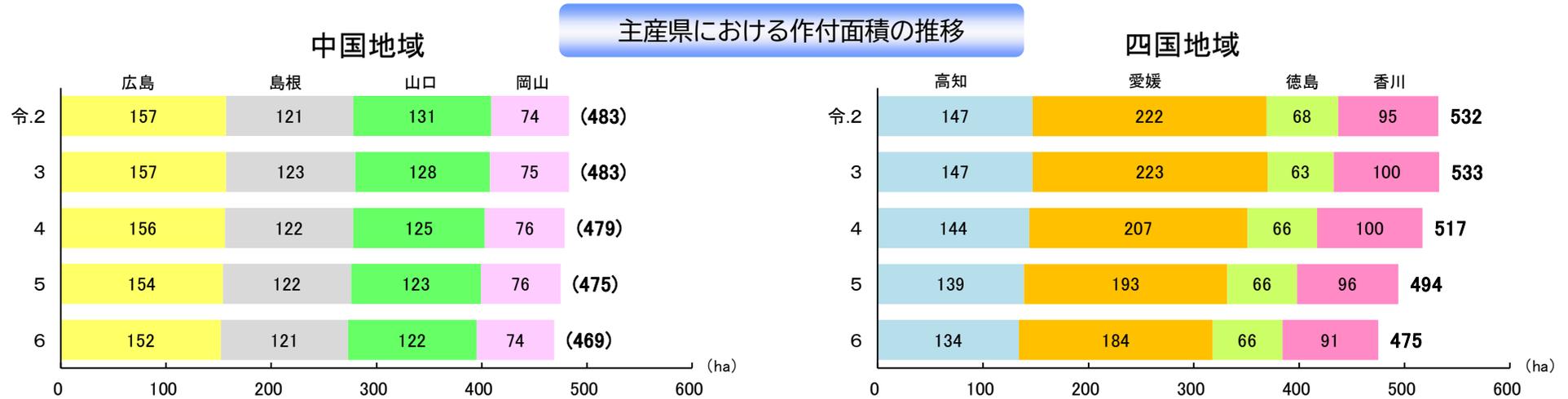
中国四国地域の主産県調査対象: 鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知(9県)

## C 農業生産編(耕種)

# 野菜(きゅうり)

きゅうりの作付面積は、中国地域では広島県、山口県、島根県、岡山県の順となっています。四国地域では愛媛県、高知県、香川県、徳島県の順となっています。

収穫量は、中国地域では広島県、島根県、山口県、岡山県の順となっています。四国地域では高知県が多く、愛媛県、徳島県、香川県の順となっています。



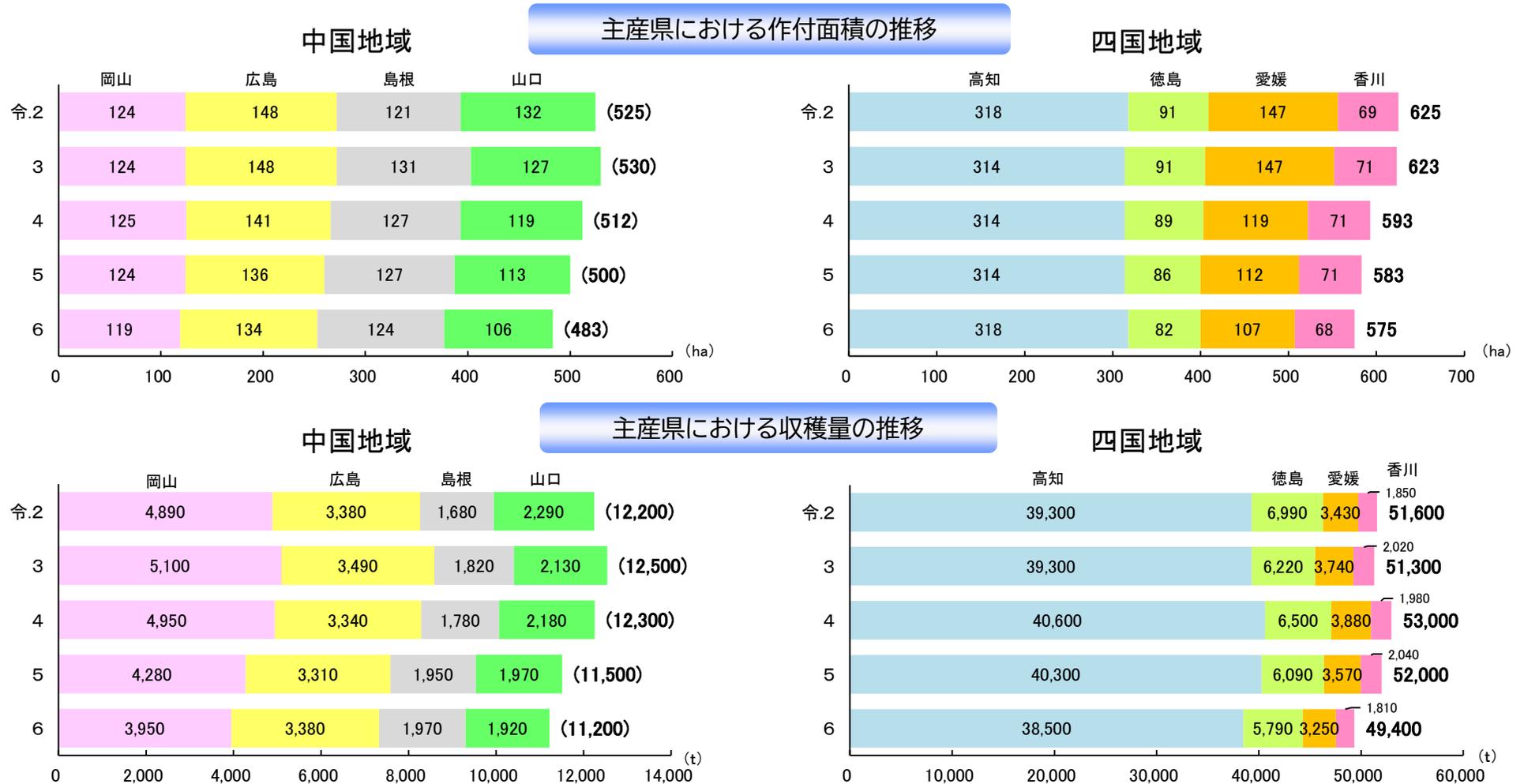
中国四国地域の主産県調査対象：島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知(8県)

## C 農業生産編(耕種)

# 野菜(なす)

なすの作付面積は、中国地域では広島県、島根県、岡山県、山口県の順となっています。四国地域では高知県が多く、愛媛県、徳島県、香川県の順となっています。

収穫量は、中国地域では岡山県が多く、広島県、島根県、山口県の順となっています。四国地域では高知県が多く、徳島県、愛媛県、香川県の順となっています。



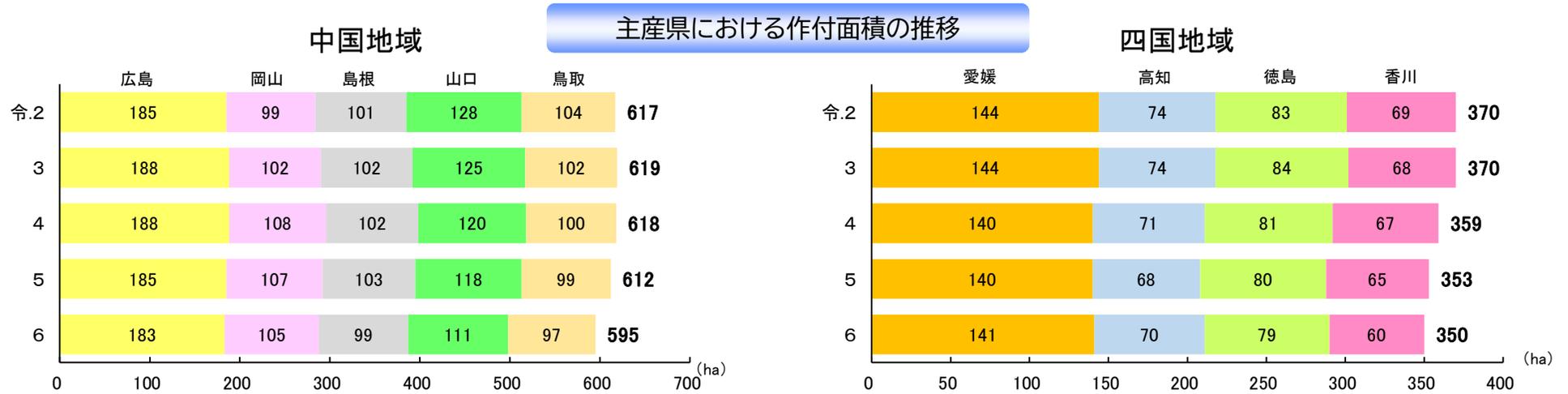
中国四国地域の主産県調査対象: 島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知(8県)

## C 農業生産編(耕種)

# 野菜(トマト)

トマトの作付面積は、中国地域では広島県、山口県、岡山県、島根県、鳥取県の順となっています。四国地域では愛媛県が多く、徳島県、高知県、香川県の順となっています。

収穫量は、中国地域では広島県が多く、岡山県、島根県、山口県、鳥取県の順となっています。四国地域では愛媛県、高知県、徳島県、香川県の順となっています。



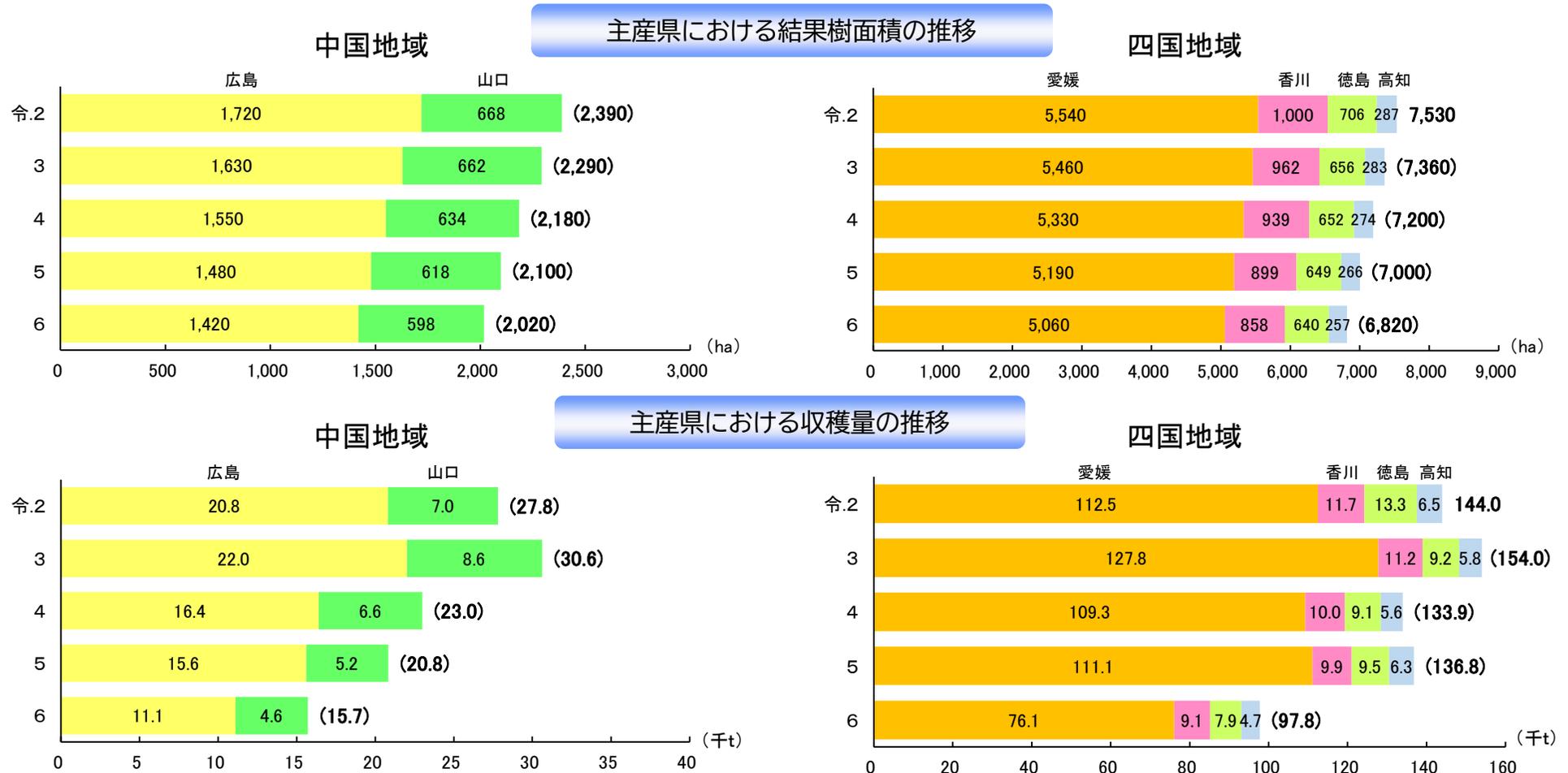
中国四国地域の主産県調査対象：鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知(9県)

## C 農業生産編(耕種)

# 果樹(みかん)

みかんの結果樹面積は、中国地域では広島県、山口県の順となっています。四国地域では愛媛県が多く、香川県、徳島県、高知県の順となっています。

収穫量は、中国地域では広島県、山口県の順となっています。四国地域では愛媛県が多く、香川県、徳島県、高知県の順となっています。



中国四国地域の主産県調査対象: 広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知(6県)

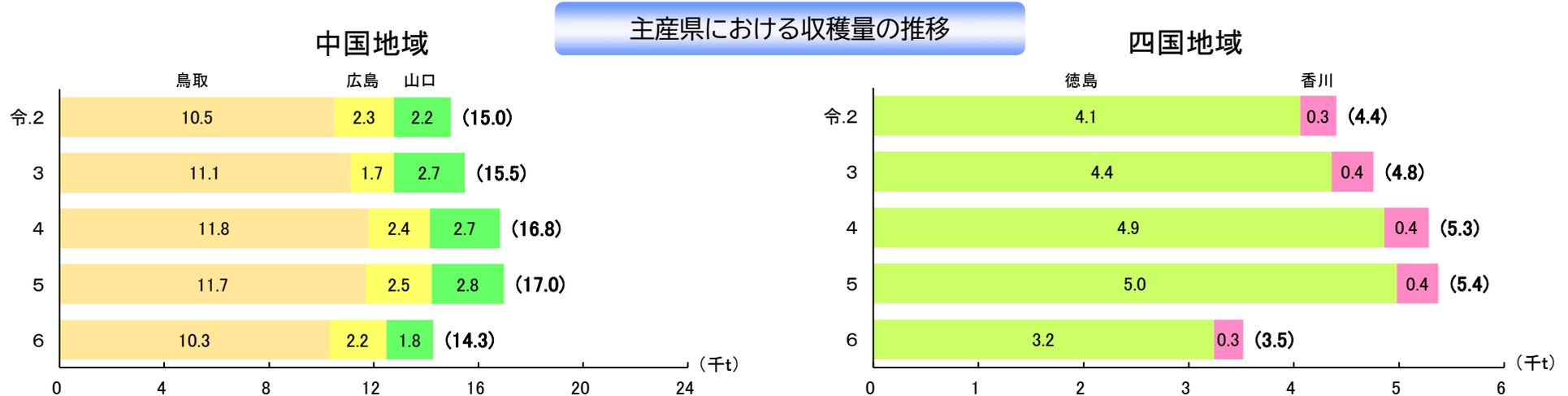
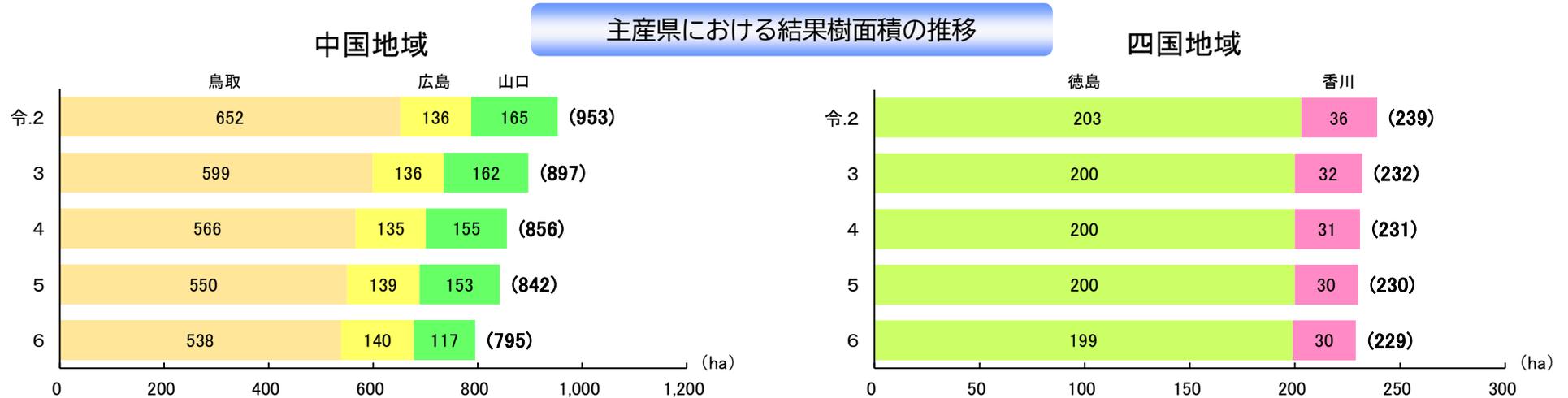
資料: 農林水産省「作物統計調査」

## C 農業生産編(耕種)

# 果樹（日本なし）

日本なしの結果樹面積は、中国地域では鳥取県が多く、広島県、山口県の順となっています。四国地域では徳島県、香川県の順となっています。

収穫量は、中国地域では鳥取県が多く、広島県、山口県の順となっています。四国地域では徳島県、香川県の順となっています。



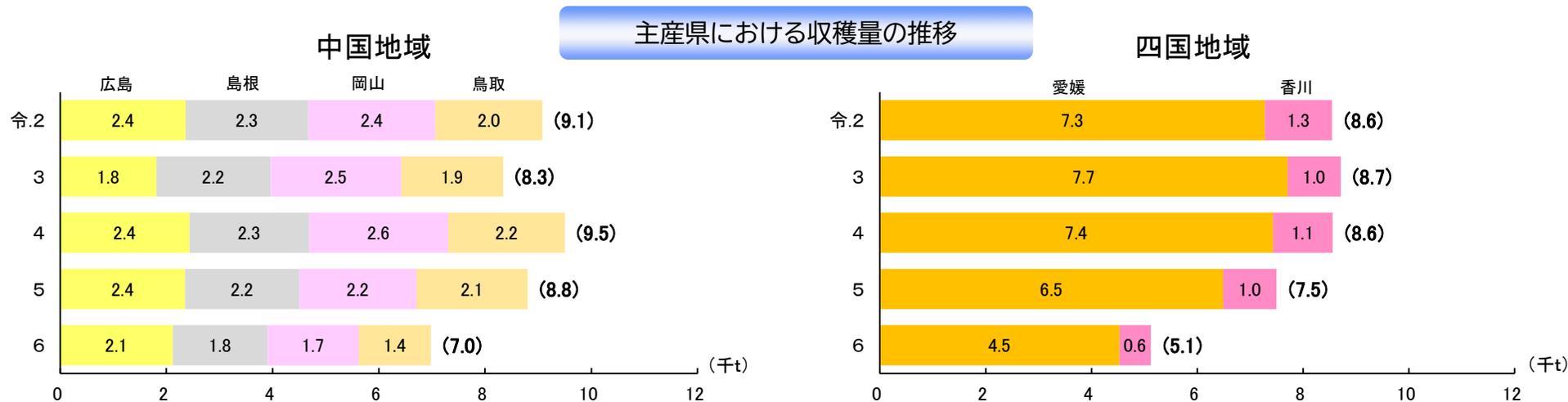
中国四国地域の主産県調査対象：鳥取・広島・山口・徳島・香川(5県)

## C 農業生産編(耕種)

# 果樹(かき)

かきの結果樹面積は、中国地域では広島県、岡山県、島根県、鳥取県の順となっています。四国地域では愛媛県、香川県の順となっています。

収穫量は、中国地域では広島県、島根県、岡山県、鳥取県の順となっています。四国地域では愛媛県、香川県の順となっています。



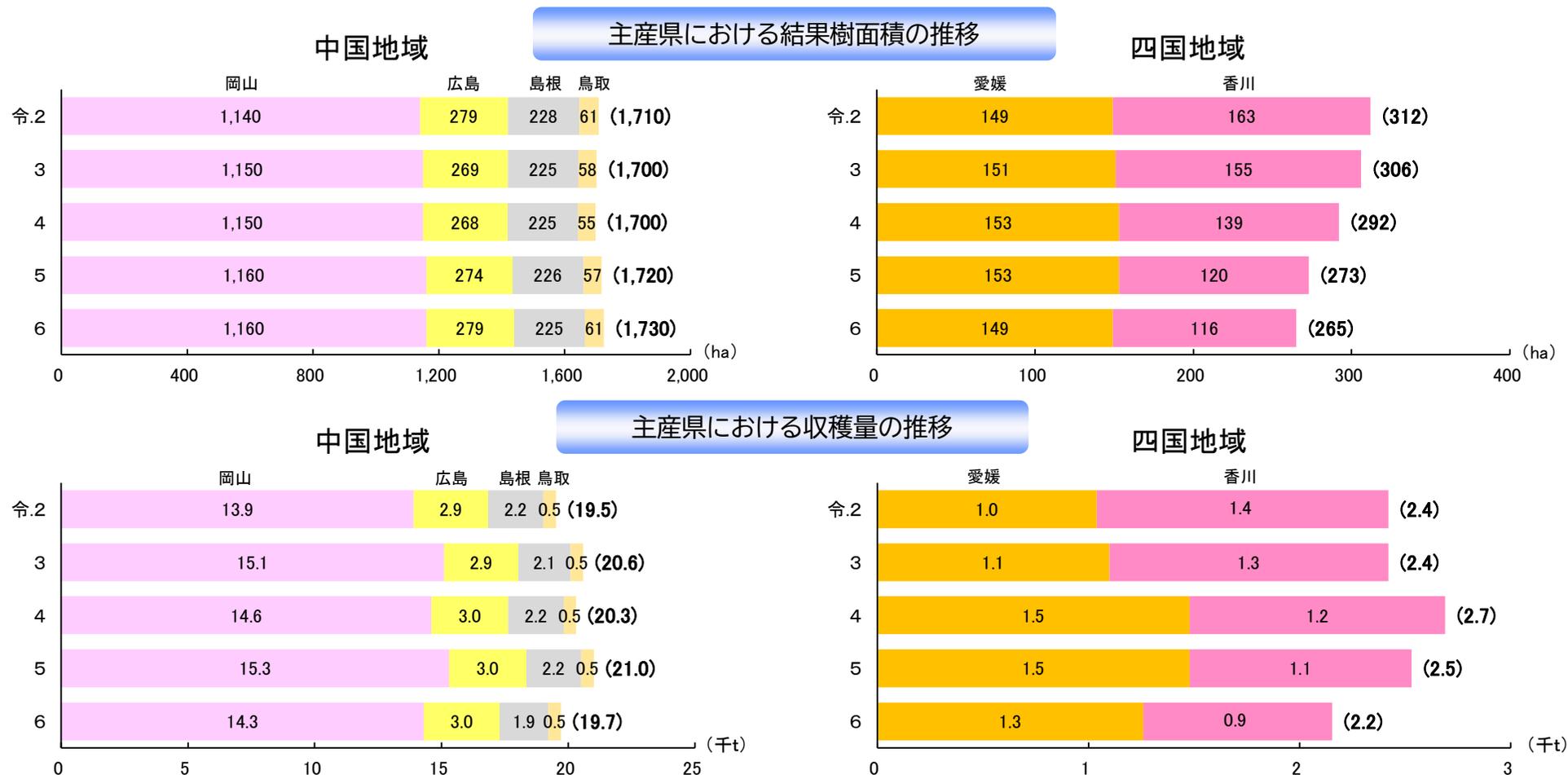
中国四国地域の主産県調査対象: 鳥取・島根・岡山・広島・香川・愛媛(6県)

## C 農業生産編(耕種)

# 果樹(ぶどう)

ぶどうの結果樹面積は、中国地域では岡山県が多く、広島県、島根県、鳥取県の順となっています。四国地域では愛媛県、香川県の順となっています。

収穫量は、中国地域では岡山県が多く、広島県、島根県、鳥取県の順となっています。四国地域では愛媛県、香川県の順となっています。



中国四国地域の主産県調査対象: 鳥取・島根・岡山・広島・香川・愛媛(6県)

資料: 農林水産省「作物統計調査」

## D 農業生産編(畜産)

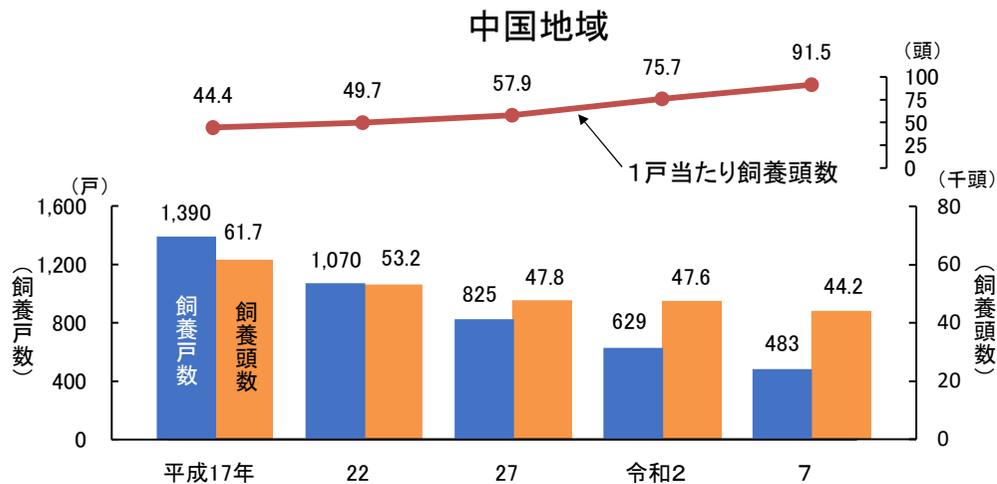
# 畜産(乳用牛)

中国四国地域における乳用牛の飼養戸数は、減少傾向で推移しており、令和7年は20年前(平成17年)に比べ、中国地域では65.3%、四国地域では72.6%それぞれ減少しています。

飼養頭数も減少傾向で推移しており、20年前に比べ、中国地域では28.4%、四国地域では51.4%それぞれ減少しています。

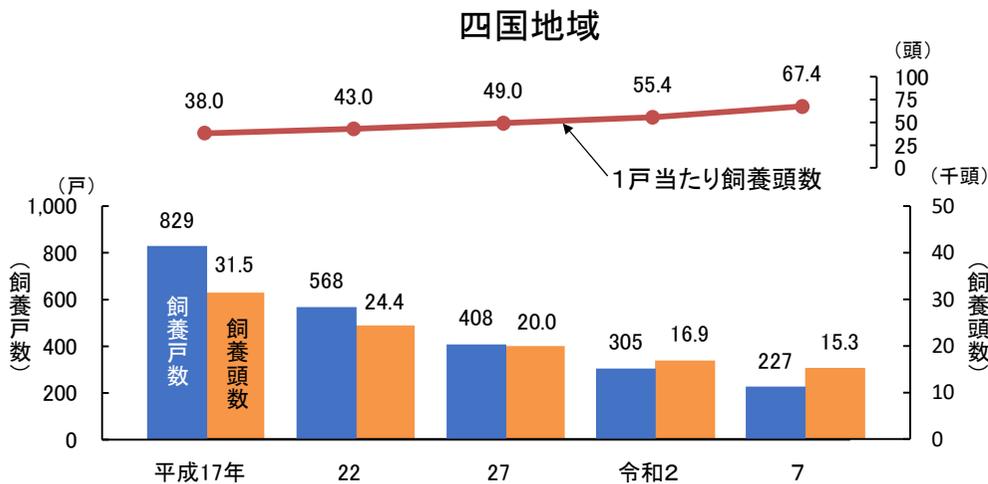
1戸当たり飼養頭数は、増加傾向で推移しており、令和7年は20年前に比べ、中国地域では106.1%、四国地域では77.4%それぞれ増加しています。

### 飼養戸数・飼養頭数及び1戸当たり飼養頭数の推移



### 県別の飼養戸数・飼養頭数及び1戸当たり飼養頭数(令和7年)

県名	飼養戸数(戸)	飼養頭数(頭)	1戸当たり飼養頭数(頭)
鳥取	94	8,520	90.6
島根	69	10,500	152.2
岡山	170	15,100	88.8
広島	103	7,810	75.8
山口	47	2,350	50.0



県名	飼養戸数(戸)	飼養頭数(頭)	1戸当たり飼養頭数(頭)
徳島	66	3,030	45.9
香川	50	4,980	99.6
愛媛	70	4,280	61.1
高知	41	3,050	74.4

注：令和2年以降は、牛個体識別全国データベース等の行政記録情報や関係統計により作成した加工統計です。

## D 農業生産編(畜産)

# 畜産(肉用牛)

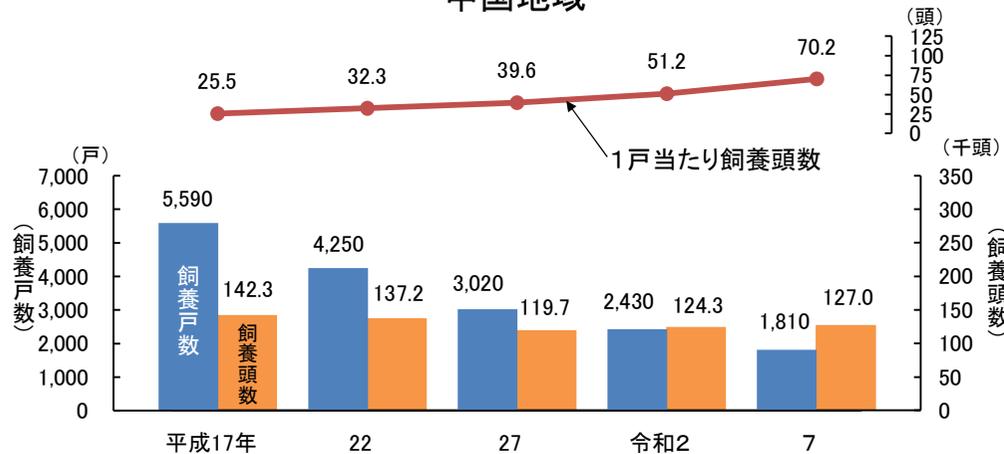
中国四国地域における肉用牛の飼養戸数は、減少傾向で推移しており、令和7年は20年前(平成17年)に比べ、中国地域では67.6%、四国地域では61.6%それぞれ減少しています。

飼養頭数は、令和に入って増加傾向にあるものの、20年前に比べ、中国地域では10.8%、四国地域では20.7%それぞれ減少しています。

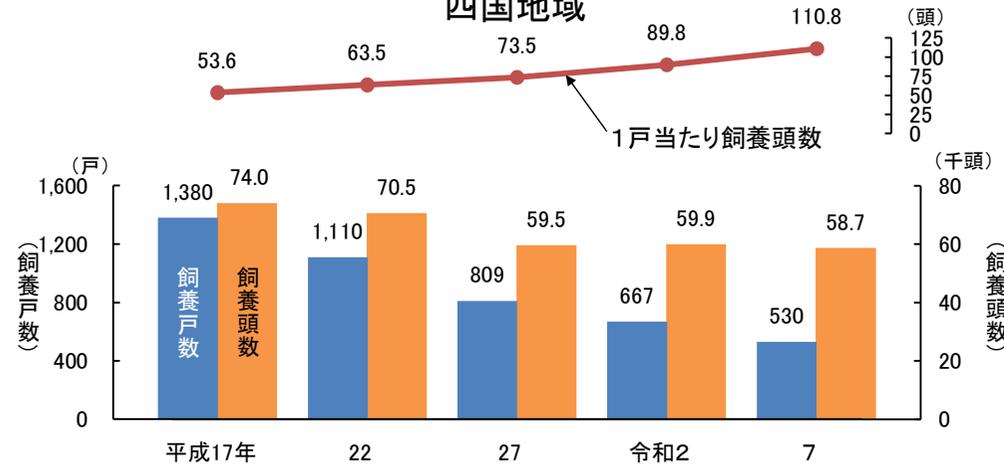
1戸当たり飼養頭数は、増加傾向で推移しており、令和7年は20年前に比べ、中国地域では175.3%、四国地域では106.7%それぞれ増加しています。

飼養戸数・飼養頭数及び1戸当たり飼養頭数の推移

### 中国地域



### 四国地域



県別の飼養戸数・飼養頭数及び1戸当たり飼養頭数(令和7年)

県名	飼養戸数(戸)	飼養頭数(頭)	1戸当たり飼養頭数(頭)
鳥取	219	21,500	98.2
島根	591	31,600	53.5
岡山	338	33,800	100.0
広島	366	26,300	71.9
山口	297	13,800	46.5

県名	飼養戸数(戸)	飼養頭数(頭)	1戸当たり飼養頭数(頭)
徳島	157	21,900	139.5
香川	139	21,200	152.5
愛媛	128	9,540	74.5
高知	106	6,050	57.1

注：令和2年以降は、牛個体識別全国データベース等の行政記録情報や関係統計により作成した加工統計です。

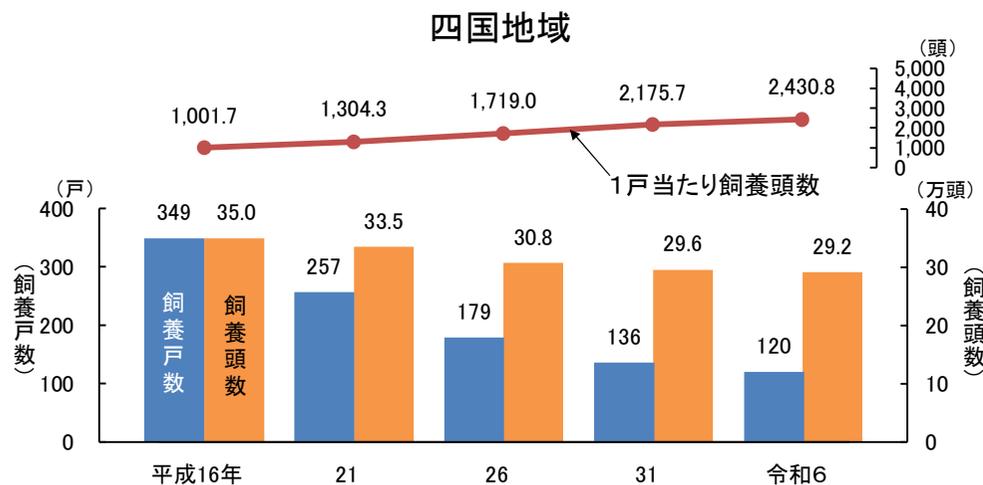
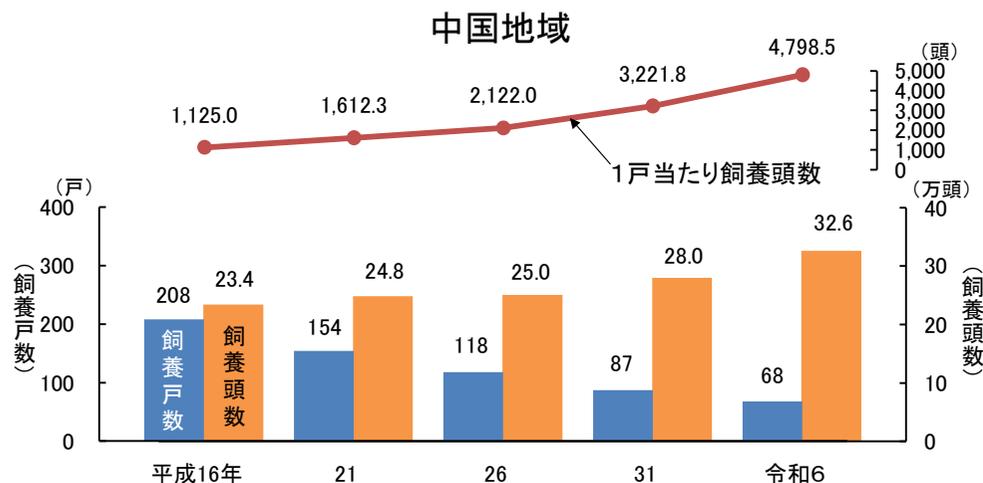
## D 農業生産編(畜産)

# 畜産(豚)

中国四国地域における豚の飼養戸数は、減少傾向で推移しており、令和6年は20年前(平成16年)に比べ、中国地域では67.3%、四国地域では65.6%それぞれ減少しています。飼養頭数は、中国地域では増加傾向で推移しており、20年前に比べ、39.4%増加しています。四国地域では概ね減少傾向で推移しており、20年前に比べ、16.6%減少しています。

1戸当たり飼養頭数は、増加傾向で推移しており、令和6年は20年前に比べ、中国地域では326.5%、四国地域では142.7%それぞれ増加しています。

### 飼養戸数・飼養頭数及び1戸当たり飼養頭数の推移



### 県別の飼養戸数・飼養頭数及び1戸当たり飼養頭数(令和6年)

県名	飼養戸数(戸)	飼養頭数(頭)	1戸当たり飼養頭数(頭)
鳥取	14	61,800	4,414.3
島根	5	39,200	7,840.0
岡山	19	45,600	2,400.0
広島	24	147,600	6,150.0
山口	6	32,100	5,350.0

県名	飼養戸数(戸)	飼養頭数(頭)	1戸当たり飼養頭数(頭)
徳島	18	45,300	2,516.7
香川	20	27,900	1,395.0
愛媛	67	196,500	2,932.8
高知	15	21,900	1,460.0

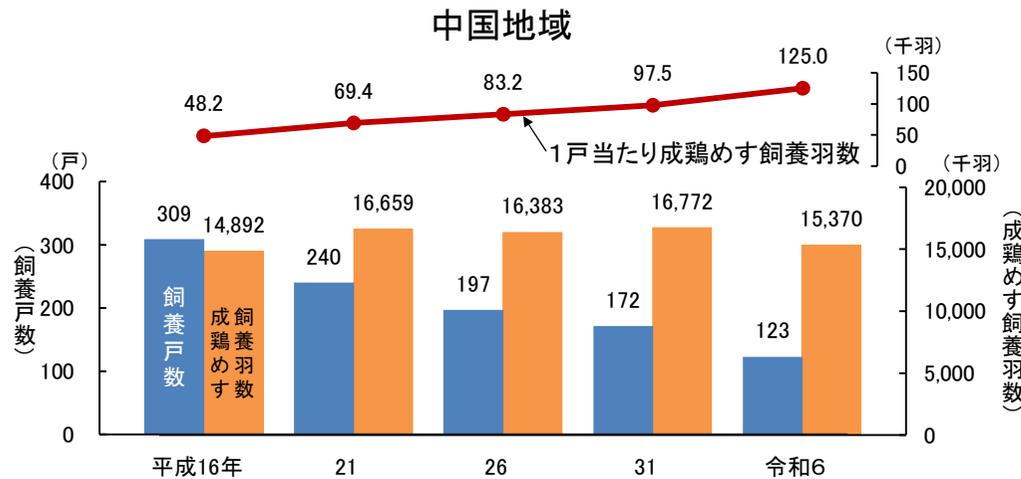
## D 農業生産編(畜産)

# 畜産(採卵鶏)

中国四国地域における採卵鶏の飼養戸数は、減少傾向で推移しており、令和6年は20年前(平成16年)に比べ、中国地域では60.2%、四国地域では68.1%それぞれ減少しています。

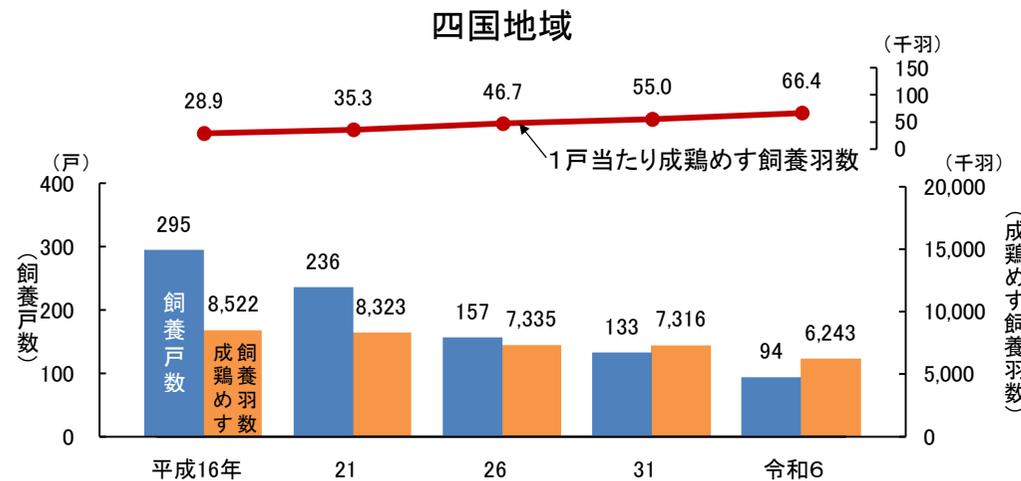
1戸当たり成鶏めす飼養羽数は、増加傾向で推移しており、令和6年は20年前に比べ、中国地域では159.3%、四国地域では129.8%それぞれ増加しています。

飼養戸数・成鶏めす飼養羽数及び  
1戸当たり成鶏めす飼養羽数の推移



県別の飼養戸数・成鶏めす飼養羽数及び  
1戸当たり成鶏めす飼養羽数(令和6年)

県名	飼養戸数(戸)	成鶏めす飼養羽数(千羽)	1戸当たり成鶏めす飼養羽数(千羽)
鳥取	8	230	28.8
島根	14	761	54.4
岡山	48	7,089	147.7
広島	40	6,133	153.3
山口	13	1,157	89.0



県名	飼養戸数(戸)	成鶏めす飼養羽数(千羽)	1戸当たり成鶏めす飼養羽数(千羽)
徳島	14	641	45.8
香川	36	3,721	103.4
愛媛	35	1,635	46.7
高知	9	246	27.3

## D 農業生産編(畜産)

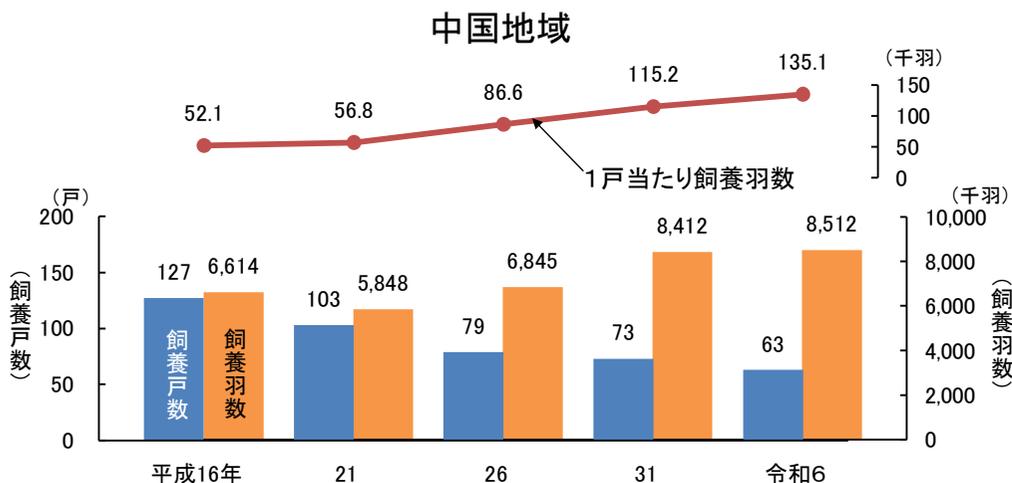
# 畜産(ブロイラー)

中国四国地域におけるブロイラーの飼養戸数は、減少傾向で推移しており、令和6年は20年前(平成16年)に比べ、中国地域では50.4%、四国地域では51.1%それぞれ減少しています。

令和6年の飼養羽数は、20年前に比べ、中国地域では28.7%増加し、四国地域では8.6%減少しています。

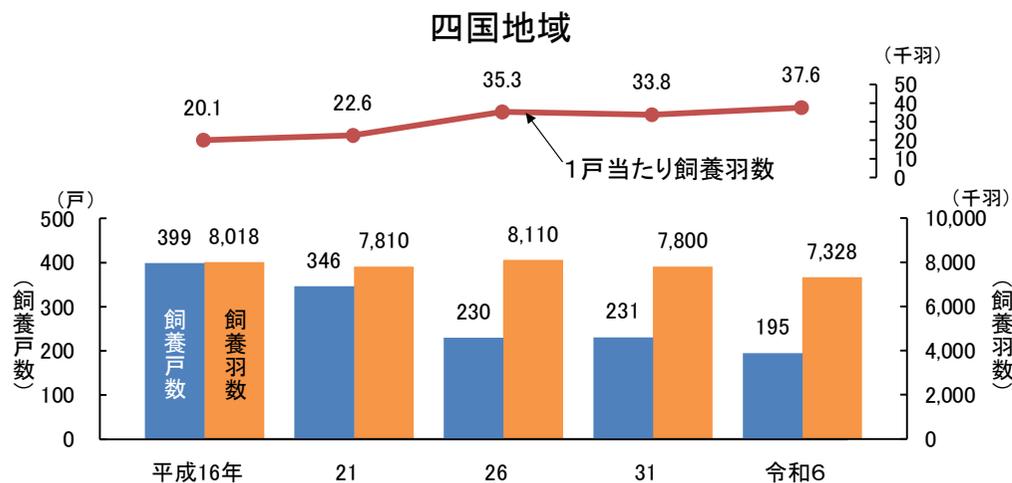
1戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移しており、令和6年は20年前に比べ、中国地域では159.3%、四国地域では87.1%それぞれ増加しています。

### 飼養戸数・飼養羽数及び1戸当たり飼養羽数の推移



### 県別の飼養戸数・飼養羽数及び1戸当たり飼養羽数(令和6年)

県名	飼養戸数 (戸)	飼養羽数 (千羽)	1戸当たり飼養羽数 (千羽)
鳥取	11	3,151	286.5
島根	4	377	94.3
岡山	18	2,840	157.8
広島	8	647	80.9
山口	22	1,497	68.0



県名	飼養戸数 (戸)	飼養羽数 (千羽)	1戸当たり飼養羽数 (千羽)
徳島	134	3,855	28.8
香川	30	2,119	70.6
愛媛	22	957	43.5
高知	9	397	44.1

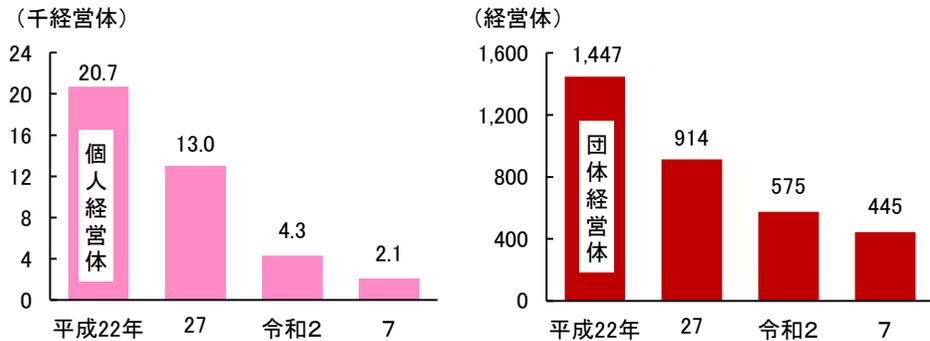
# 林業経営体

中国四国地域における個人経営体は、後継者不足に伴う廃業等のため減少傾向となっており、令和7年は15年前（平成22年）に比べ、中国地域では89.7%、四国地域では87.4%それぞれ減少しています。

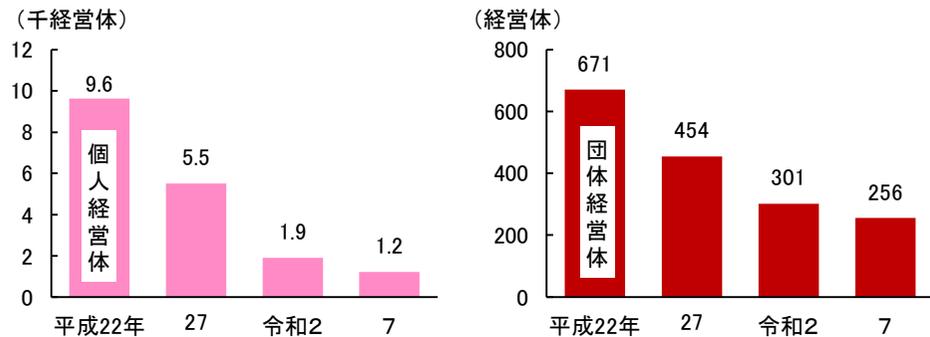
また、会社法人・森林組合などの団体経営体も減少傾向となっており、令和7年は15年前に比べ、中国地域では69.2%、四国地域では61.8%それぞれ減少しています。

林業経営体数の推移

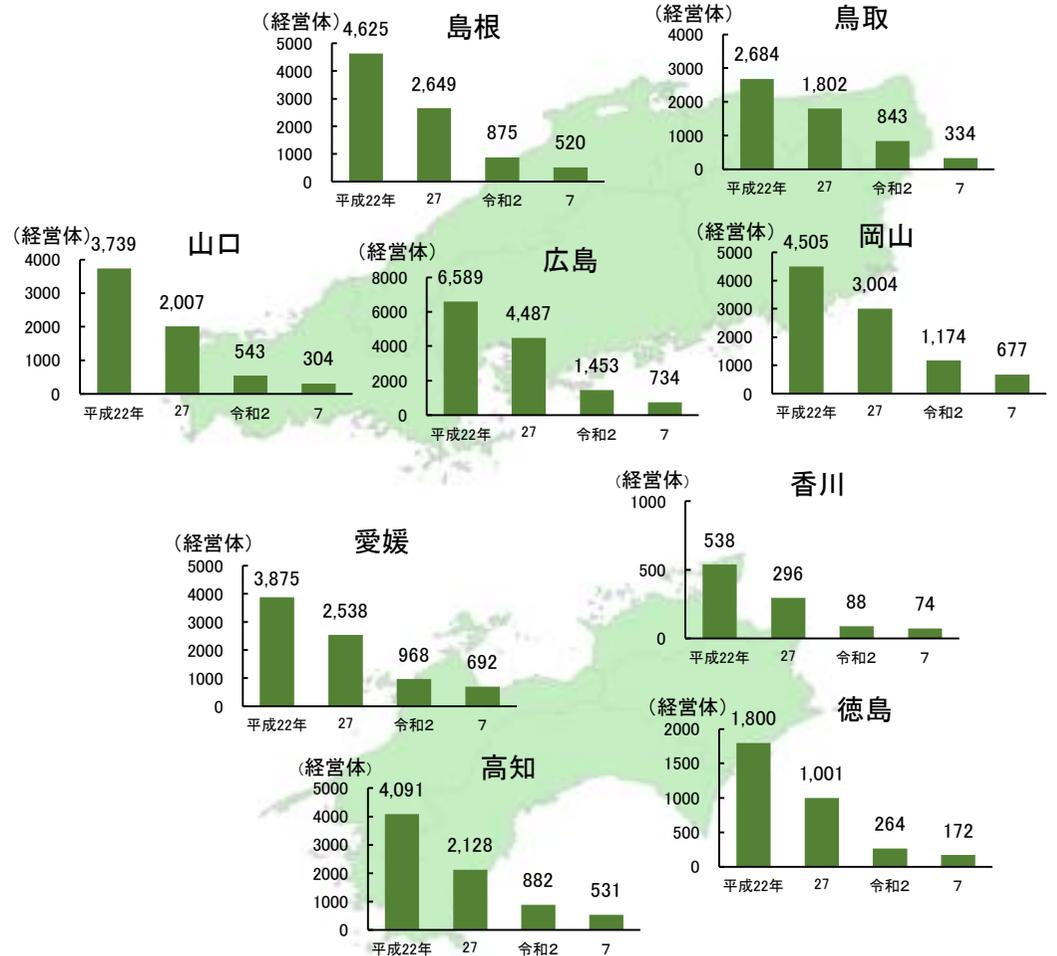
## 中国地域



## 四国地域



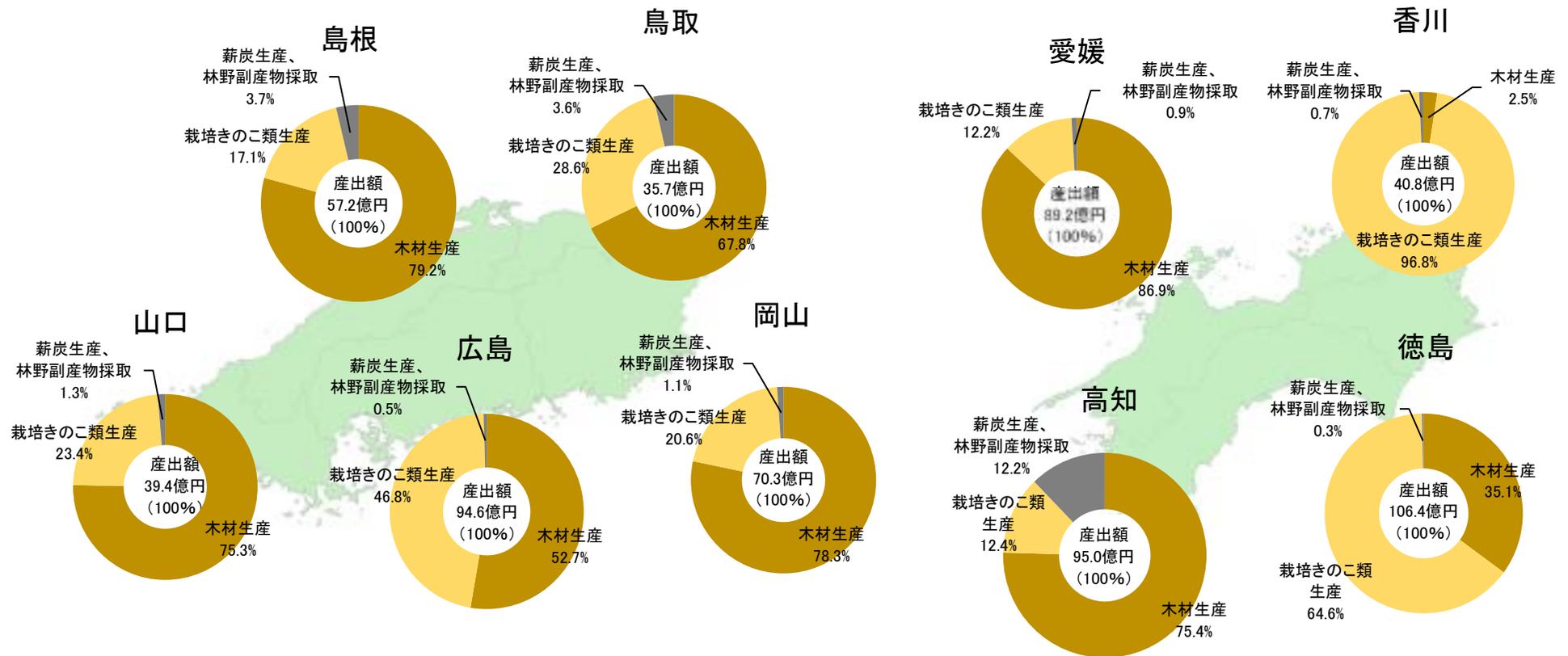
県別の林業経営体数の推移



# 林業産出額

各県の林業産出額を部門別でみると、中国地域ではいずれの県も木材生産の割合が高く、四国地域では徳島県、香川県で栽培きのご類生産の割合が高く、愛媛県、高知県で木材生産の割合が高くなっています。

各県の林業産出額(令和5年)



注：円グラフの「薪炭生産、林野副産物採取」は、便宜上、産出額（総額）から木材生産及び栽培きのご類生産を差し引いた金額の割合としています。

## 各県における主な林産物生産量

中国地域の素材生産量は、鳥取県、島根県、広島県、山口県では「すぎ」、岡山県では「ひのき」が多くなっています。四国地域の素材生産量は、徳島県、愛媛県では「すぎ」、香川県、高知県では「ひのき」が多くなっています。

中国地域のきのか類生産量は、いずれの県も「生しいたけ」が多くなっています。四国地域のきのか類生産量は、徳島県では「生しいたけ」、香川県、高知県では「ぶなしめじ」、愛媛県では「えのきたけ」が多くなっています。

各県における素材生産量と主なきのか類の生産量(令和5年)

島根県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	405 千㎡	16位
すぎ	224 千㎡	15位
広葉樹	84 千㎡	5位
ひのき	75 千㎡	16位
あかまつ・くろまつ	13 千㎡	7位
生しいたけ	789 t	24位
まいたけ	186 t	8位
乾しいたけ	67 t	20位
エリンギ	7 t	11位
なめこ	3 t	27位

鳥取県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	254 千㎡	25位
すぎ	176 千㎡	19位
ひのき	45 千㎡	22位
広葉樹	23 千㎡	18位
あかまつ・くろまつ	7 千㎡	11位
生しいたけ	321 t	34位
エリンギ	319 t	5位
えのきたけ	208 t	11位
ぶなしめじ	98 t	15位
乾きくらげ類	78 t	4位

愛媛県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	600 千㎡	12位
すぎ	343 千㎡	11位
ひのき	254 千㎡	2位
あかまつ・くろまつ	3 千㎡	16位
えのきたけ	857 t	9位
乾しいたけ	701 t	4位
生しいたけ	423 t	31位
乾きくらげ類	43 t	6位
生きくらげ類	8 t	26位

香川県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	9 千㎡	45位
ひのき	5 千㎡	32位
すぎ	2 千㎡	46位
広葉樹	2 千㎡	38位
ぶなしめじ	5,154 t	4位
生しいたけ	119 t	43位
乾しいたけ	5 t	47位

山口県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	222 千㎡	26位
すぎ	135 千㎡	23位
ひのき	59 千㎡	18位
広葉樹	24 千㎡	17位
あかまつ・くろまつ	4 千㎡	14位
生しいたけ	330 t	33位
乾しいたけ	87 t	18位
エリンギ	3 t	13位
ひらたけ	1 t	28位

広島県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	366 千㎡	19位
すぎ	149 千㎡	21位
ひのき	111 千㎡	12位
広葉樹	93 千㎡	4位
あかまつ・くろまつ	13 千㎡	7位
生しいたけ	728 t	25位
乾しいたけ	41 t	27位
なめこ	9 t	22位
生きくらげ類	4 t	28位
乾きくらげ類	3 t	24位

岡山県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	384 千㎡	18位
ひのき	238 千㎡	4位
すぎ	110 千㎡	29位
広葉樹	26 千㎡	15位
その他	6 千㎡	10位
生しいたけ	1,428 t	16位
生きくらげ類	56 t	13位
乾しいたけ	34 t	32位
乾きくらげ類	26 t	11位
ぶなしめじ	24 t	18位

高知県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	555 千㎡	13位
ひのき	250 千㎡	3位
すぎ	206 千㎡	17位
その他	95 千㎡	1位
広葉樹	4 千㎡	34位
ぶなしめじ	1,041 t	8位
生しいたけ	413 t	32位
乾しいたけ	143 t	12位
乾きくらげ類	29 t	10位
生きくらげ類	27 t	16位

徳島県		
品目	生産量	全国順位
素材生産量	321 千㎡	22位
すぎ	249 千㎡	14位
生しいたけ	7,200 t	1位
乾しいたけ	47 t	25位

資料：農林水産省「令和5年木材需給報告書」、「令和5年特用林産基礎資料」

注：1 素材生産量の「その他」は、「あかまつ・くろまつ」、「すぎ」、「ひのき」、「からまつ」、「えぞまつ・とどまつ」以外の針葉樹です。

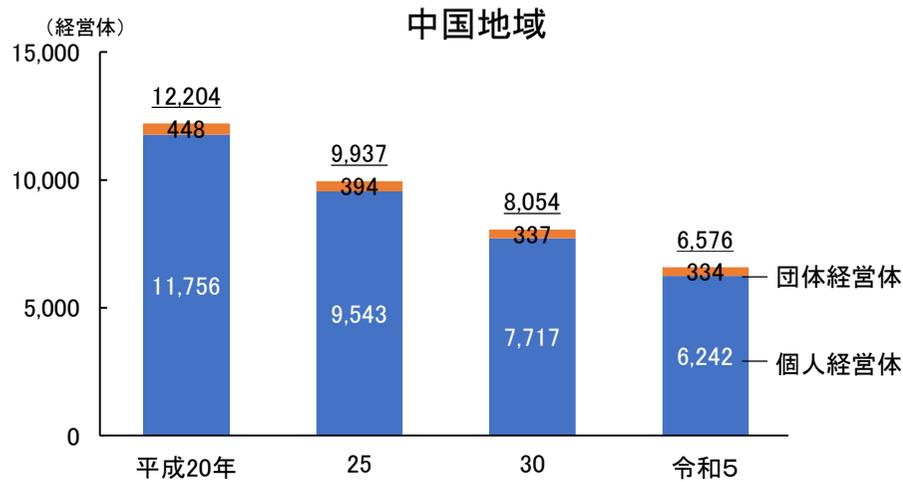
2 「乾しいたけ」、「乾きくらげ類」の生産量は、生換算値です。

## 海面漁業経営体数及び漁業就業者数

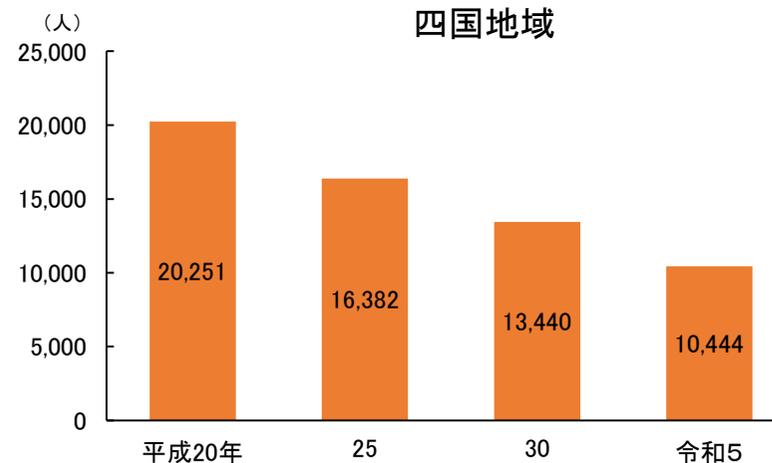
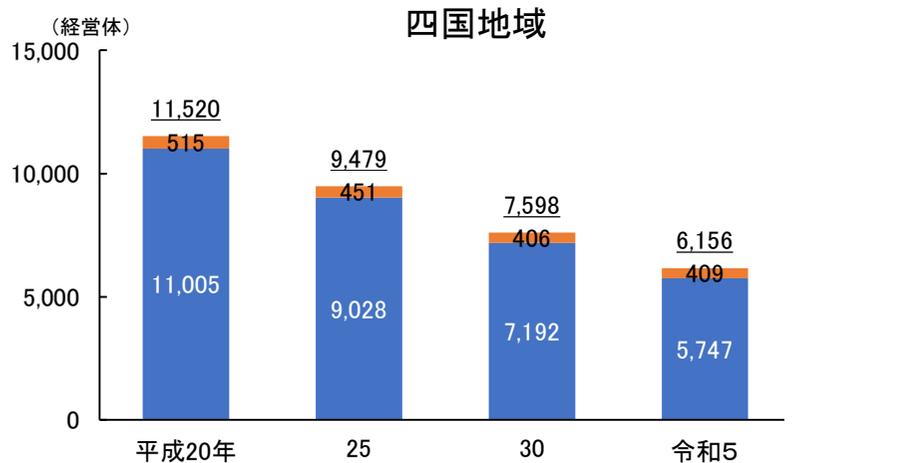
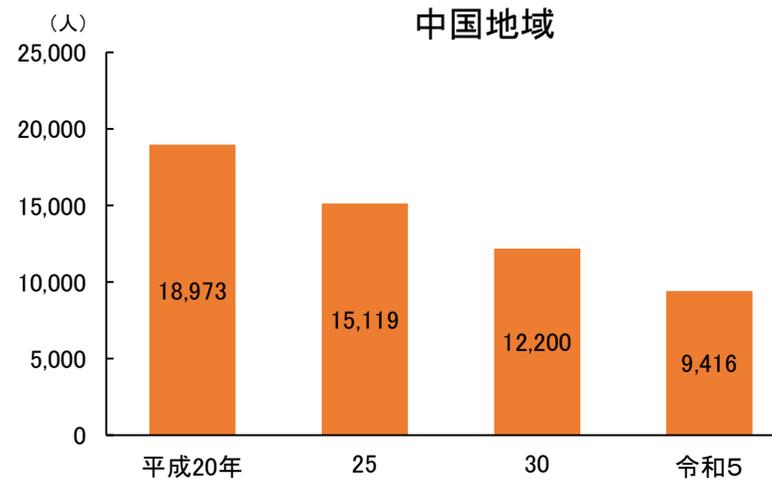
令和5年における海面漁業経営体数は、中国地域が6,576経営体、四国地域が6,156経営体で、15年前（平成20年）に比べ、46.1%、46.6%それぞれ減少しています。

漁業就業者数は、中国地域が9,416人、四国地域が1万444人で、15年前（平成20年）に比べ、50.4%、48.4%それぞれ減少しています。

海面漁業経営体数の推移



漁業就業者数の推移

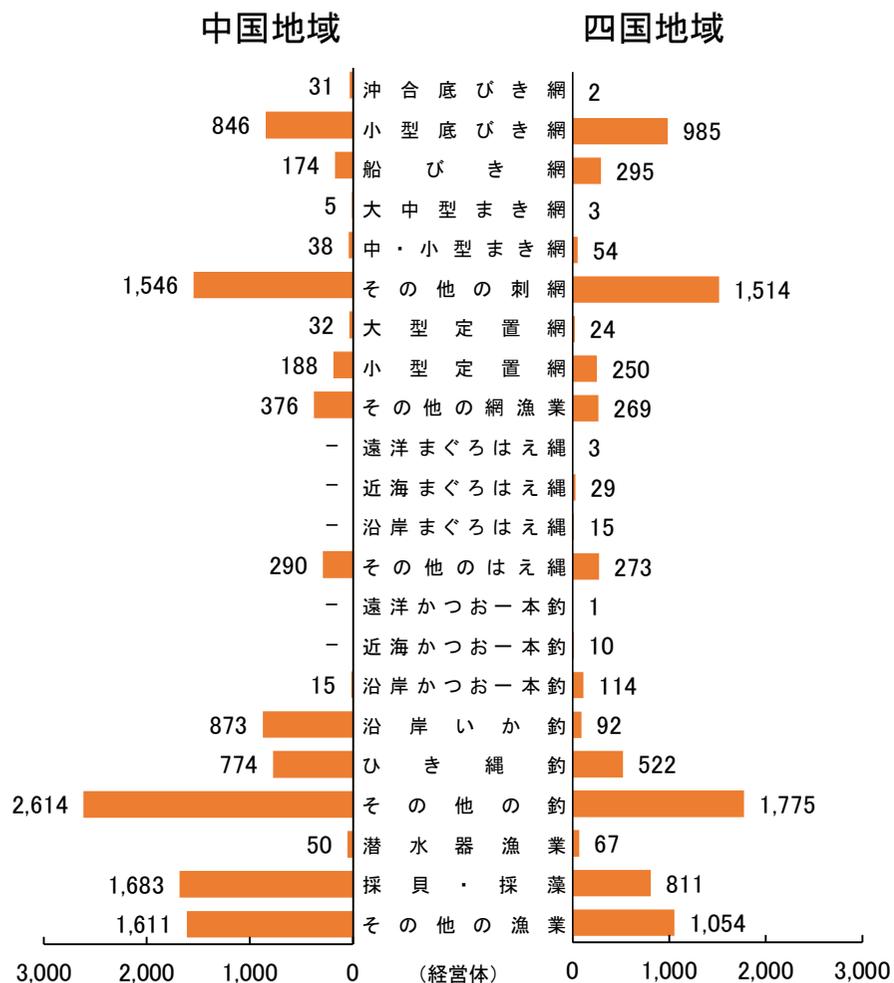


## F 水産業編

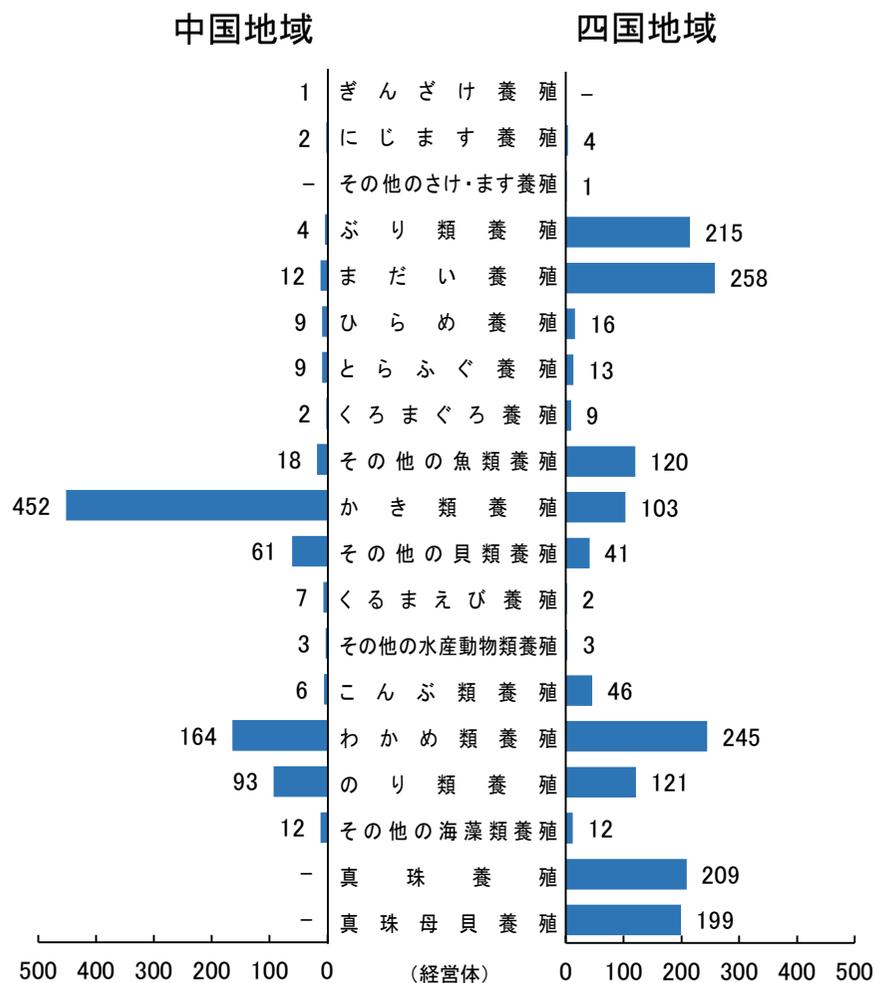
# 海面漁業経営体数（営んだ漁業種類・養殖種類別）

令和5年における海面漁業経営体を営んだ漁業種類別にみると、中国地域では「その他の釣」（2,614経営体）が最も多く、次いで「採貝・採藻」、  
「その他の漁業」の順、四国地域では「その他の釣」（1,775経営体）が最も多く、次いで「その他の刺網」、「その他の漁業」の順となっています。  
営んだ養殖種類別にみると、中国地域では「かき類養殖」（452経営体）が最も多く、次いで「わかめ類養殖」、「のり類養殖」の順、四国地域では  
「まだい養殖」（258経営体）が最も多く、次いで「わかめ類養殖」、「ぶり類養殖」の順となっています。

営んだ漁業種類別経営体数(複数回答)



営んだ養殖種類別経営体数(複数回答)



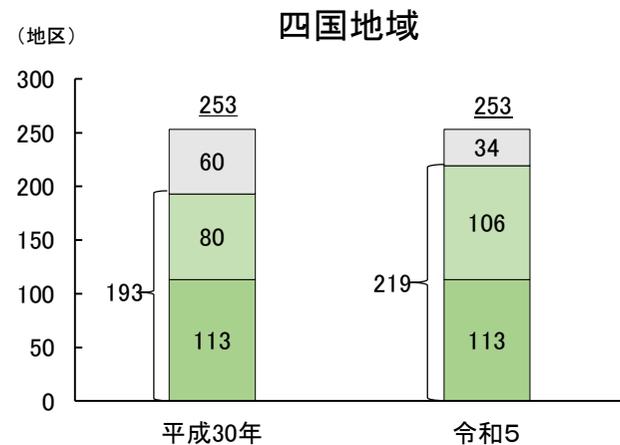
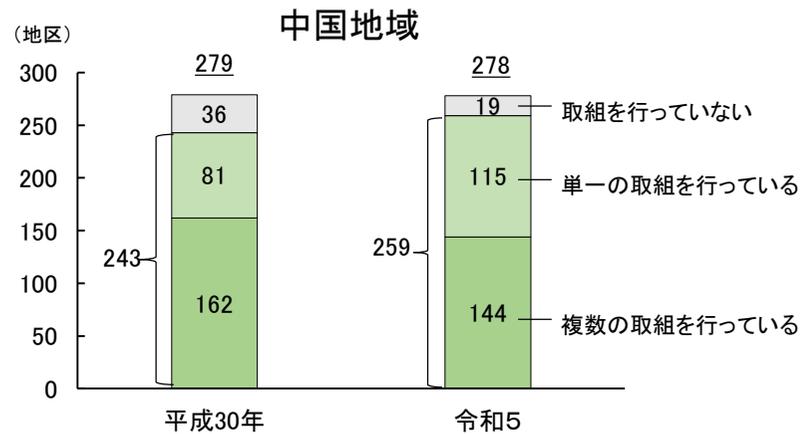
## F 水産業編

# 資源管理・漁場改善の取組（海面漁業）

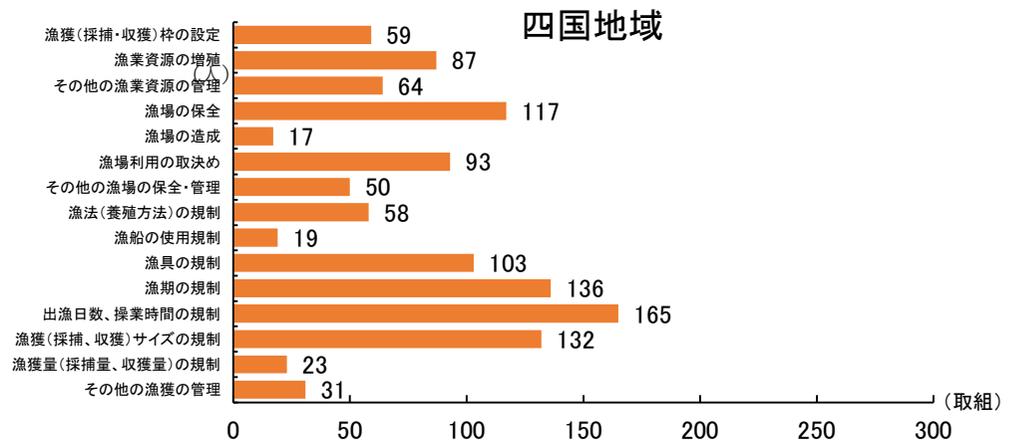
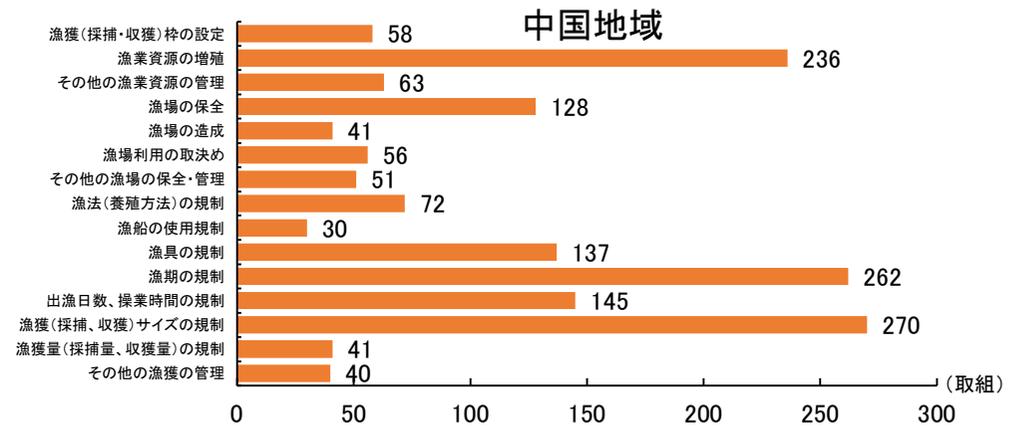
令和5年における漁業地区（中国地域：278地区、四国地域：253地区）のうち、漁業協同組合が関係する資源管理や漁場改善を目的とした取組を行っている漁業地区は、中国地域が259地区、四国地域が219地区で、5年前（平成30年）に比べ、6.6%、13.5%それぞれ増加しています。

同取組を管理内容別にみると、中国地域では「漁獲（採捕、収穫）サイズの規制」（270取組）が最も多く、四国地域では「出漁日数、作業時間の規制」（165取組）が最も多くなっています。

資源管理・漁場改善の取組の有無別地区数の推移



資源管理・漁場改善の管理内容別取組数（複数回答）



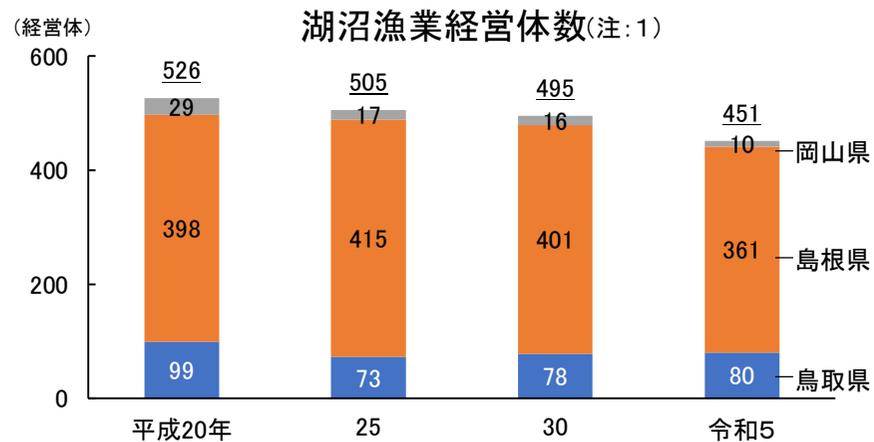
資料：農林水産省「漁業センサス」

## 内水面漁業経営体数及び従事者数

令和5年における湖沼漁業（注：1参照）経営体数は451経営体で、15年前（平成20年）に比べ、14.3%減少しています。湖沼漁業の湖上作業従事者数は554人で、15年前（平成20年）に比べ、26.0%減少しています。

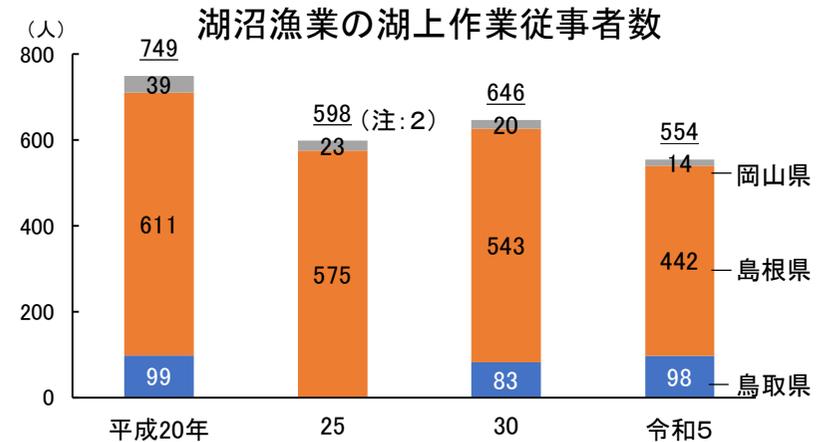
内水面養殖業経営体数は333経営体で、15年前（平成20年）に比べ、47.6%減少しています。内水面養殖業従事者数は1,264人で、15年前（平成20年）に比べ、39.8%減少しています。

湖沼漁業及び内水面養殖業経営体数の推移

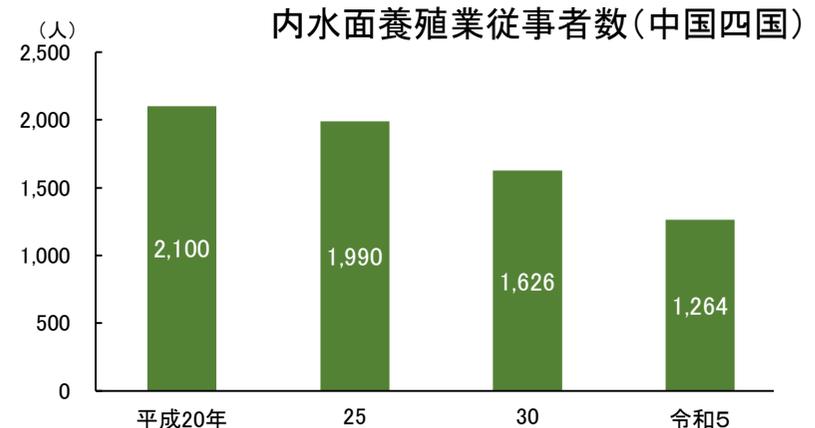
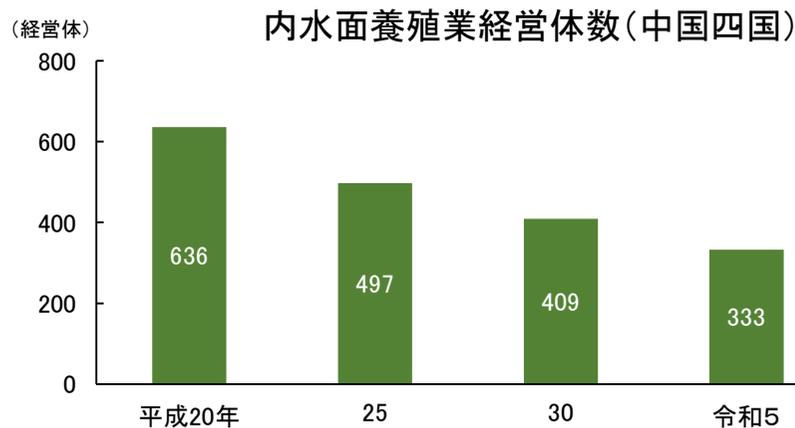


注：1 中国四国地域の湖沼漁業の調査対象は、鳥取県（湖山池、東郷池）・島根県（宍道湖、神西湖）・岡山県（児島湖）の5湖沼です。

湖上作業及び内水面養殖業従事者数の推移



注：2 平成25年は、鳥取県の値が秘匿されているため、島根県と岡山県の合計値です。



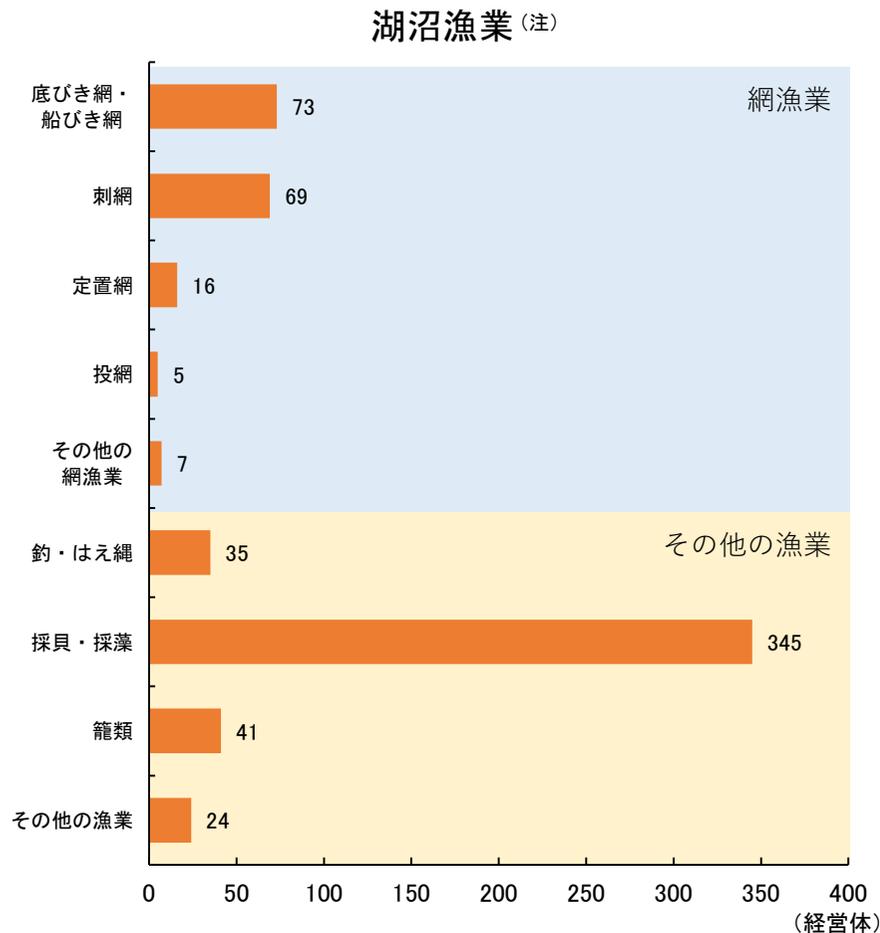
## F 水産業編

# 内水面漁業経営体数（営んだ漁業種類・養殖種類別）

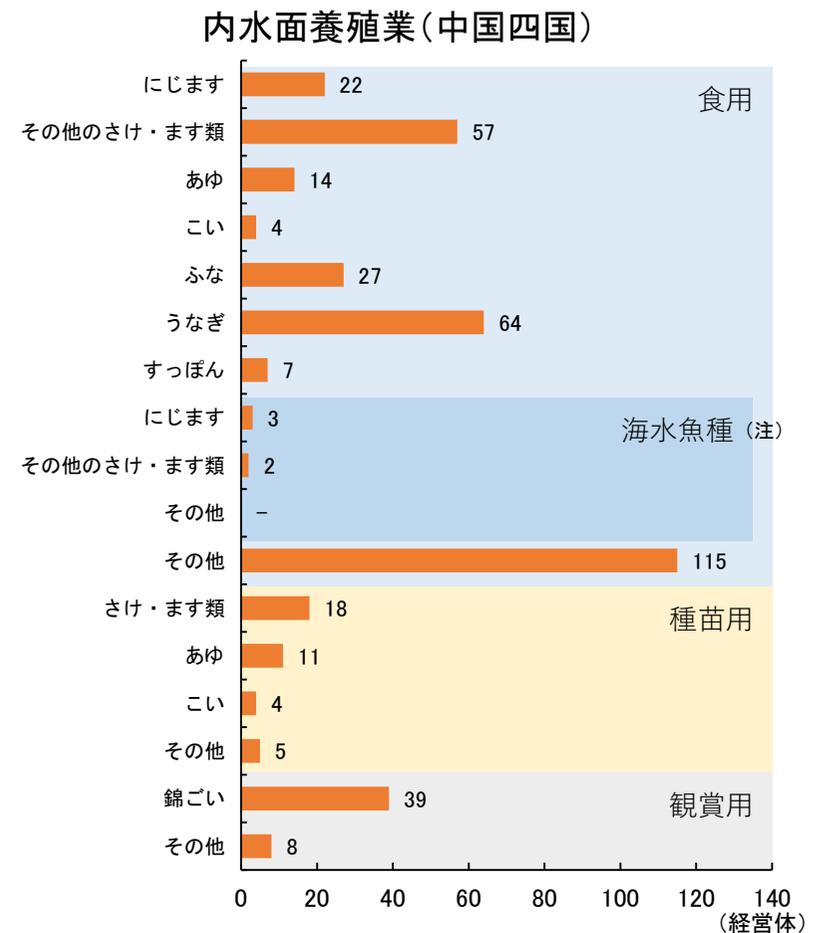
令和5年における湖沼漁業経営体を営んだ漁業種類別にみると、「採貝・採藻」（345経営体）が最も多く、次いで「底びき網・船びき網」、「刺網」の順となっています。

内水面養殖業経営体を営んだ養殖種類別にみると、食用の「その他」（115経営体）が最も多く、次いで「うなぎ」、「その他のさけ・ます類」、観賞用の「錦ごい」の順となっています。

湖沼漁業経営体数(営んだ漁業種類別)(複数回答)



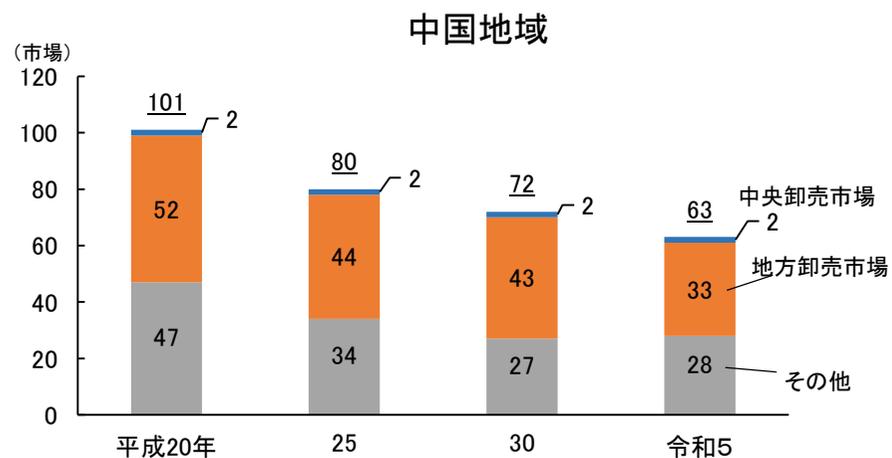
内水面養殖業経営体数(営んだ養殖種類別)(複数回答)



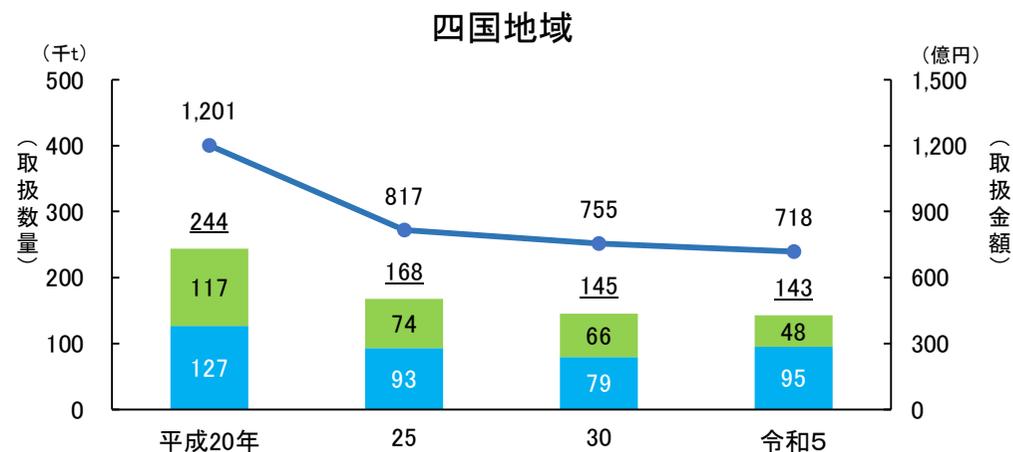
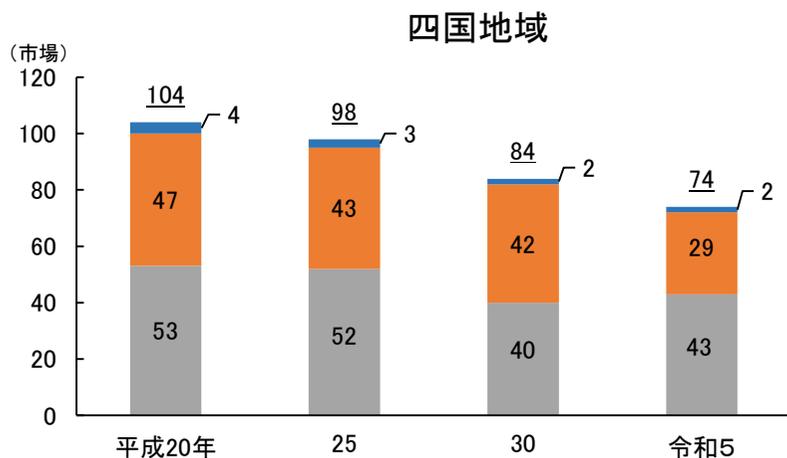
## 魚市場数及び年間取扱高

令和5年における魚市場数は、中国地域が63市場、四国地域が74市場で、15年前（平成20年）に比べ、37.6%、28.8%それぞれ減少しています。  
 年間取扱高は、中国地域の取扱数量は24万6千t、取扱金額は1,426億円、四国地域の取扱数量は14万3千t、取扱金額は718億円となっており、それぞれ減少傾向で推移しています。

魚市場数の推移



年間取扱高の推移

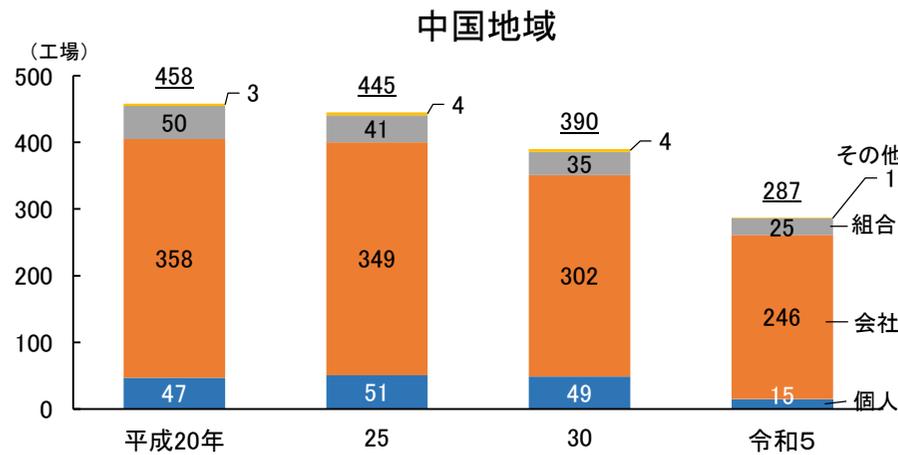


## 冷凍・冷蔵工場数及び従業者数

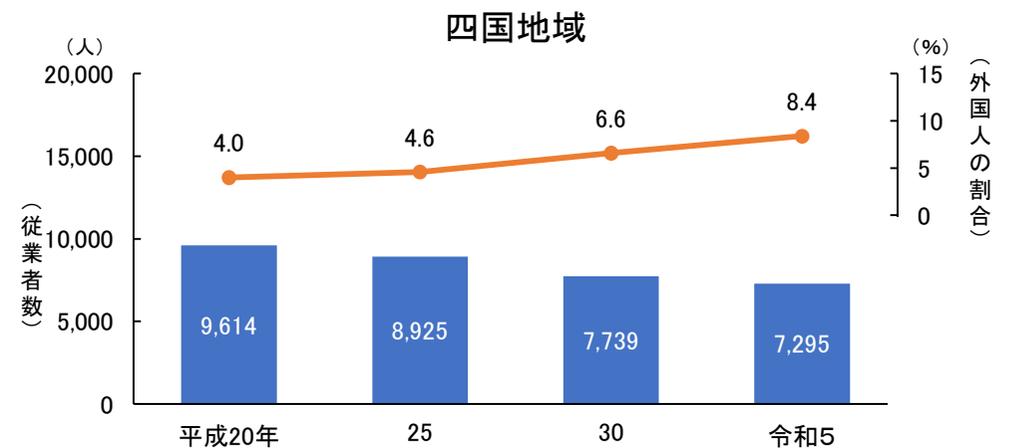
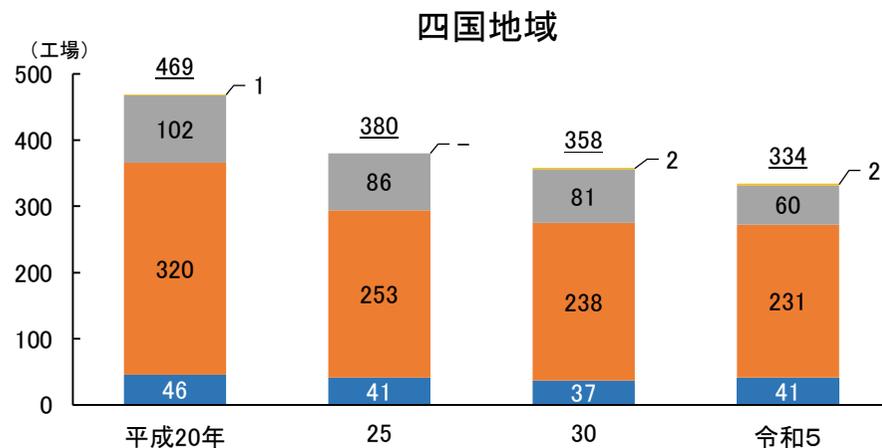
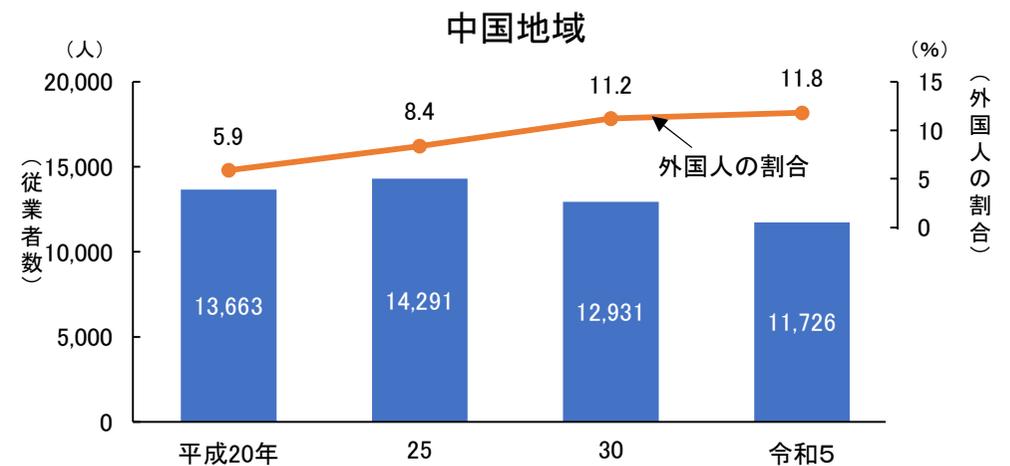
令和5年における冷凍・冷蔵工場数は、中国地域が287工場、四国地域が334工場、15年前（平成20年）に比べ、37.3%、28.8%それぞれ減少しています。

従業者数は、中国地域が1万1,726人、四国地域が7,295人で、15年前（平成20年）に比べ、14.2%、24.1%それぞれ減少しています。従業者のうち外国人の割合は、中国地域が11.8%、四国地域が8.4%で、それぞれ増加傾向で推移しています。

冷凍・冷蔵工場数の推移



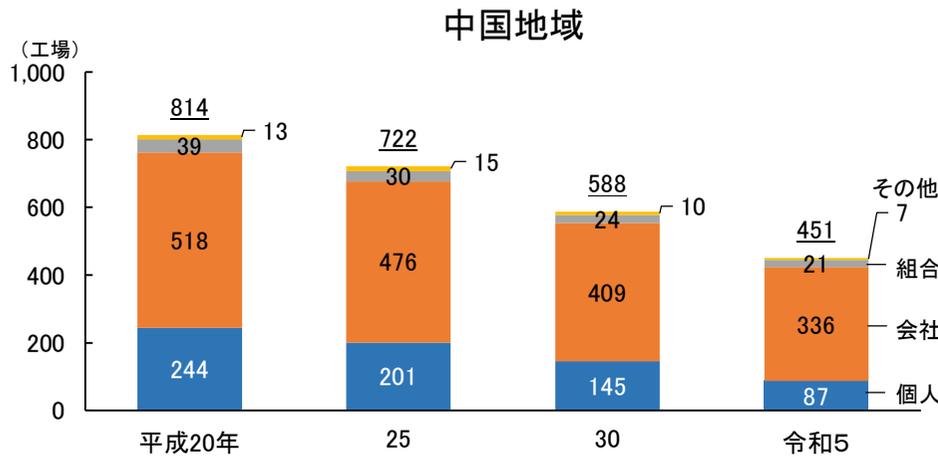
冷凍・冷蔵工場従業者数の推移



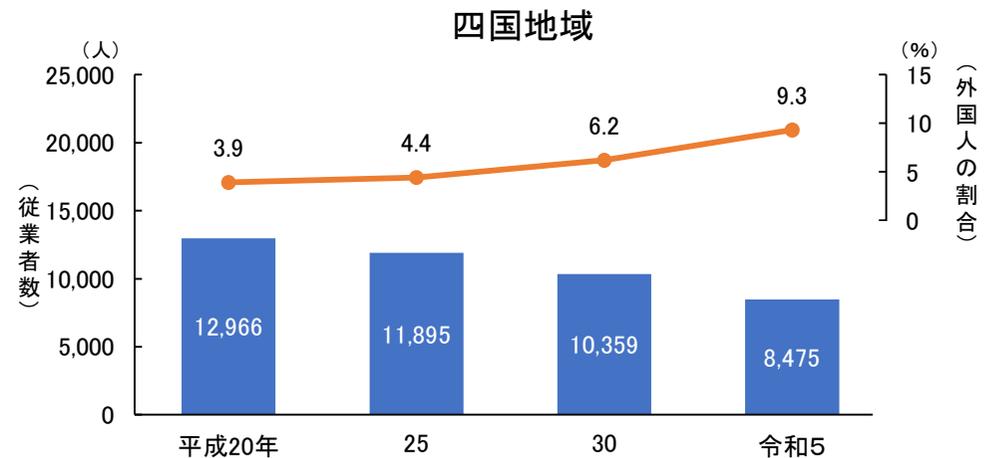
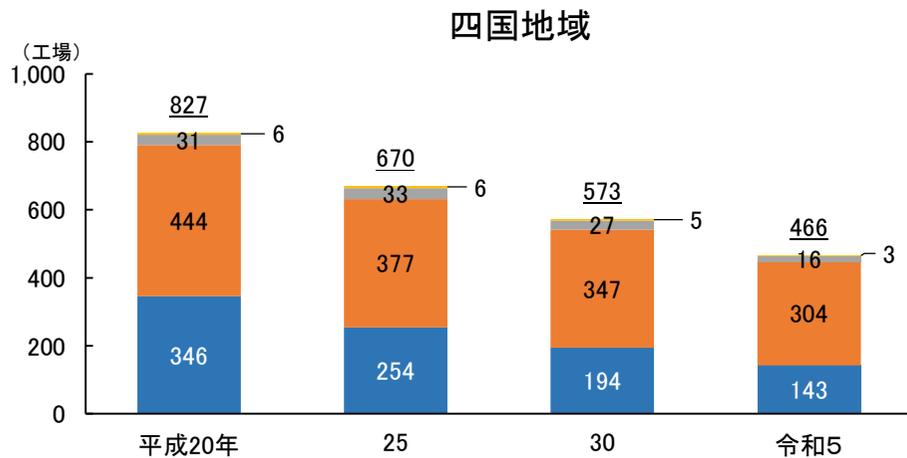
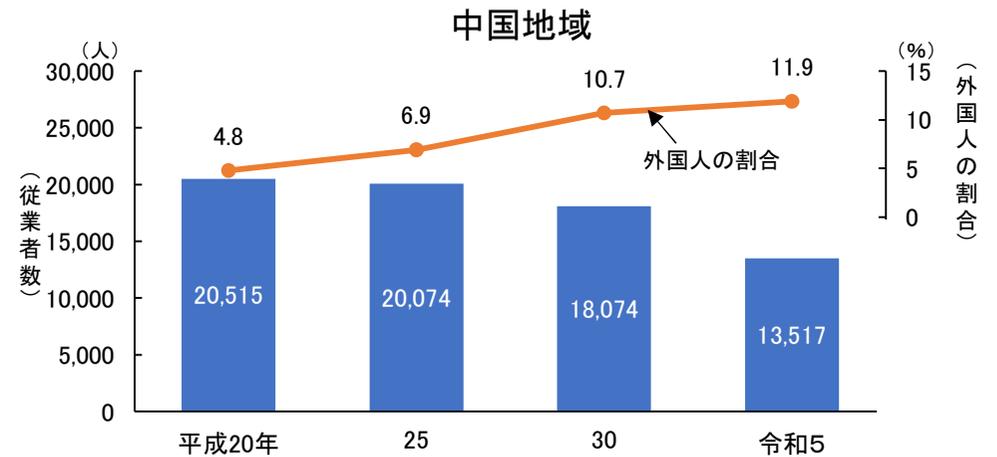
# 水産加工場数及び従業者数

令和5年における水産加工場数は、中国地域が451工場、四国地域が466工場で、15年前（平成20年）に比べ、44.6%、43.7%それぞれ減少しています。従業者数は、中国地域が1万3,517人、四国地域が8,475人で、15年前（平成20年）に比べ、34.1%、34.6%それぞれ減少しています。従業者数のうち外国人の割合は、中国地域が11.9%、四国地域が9.3%で、それぞれ増加傾向で推移しています。

水産加工場数の推移



水産加工場従業者数の推移

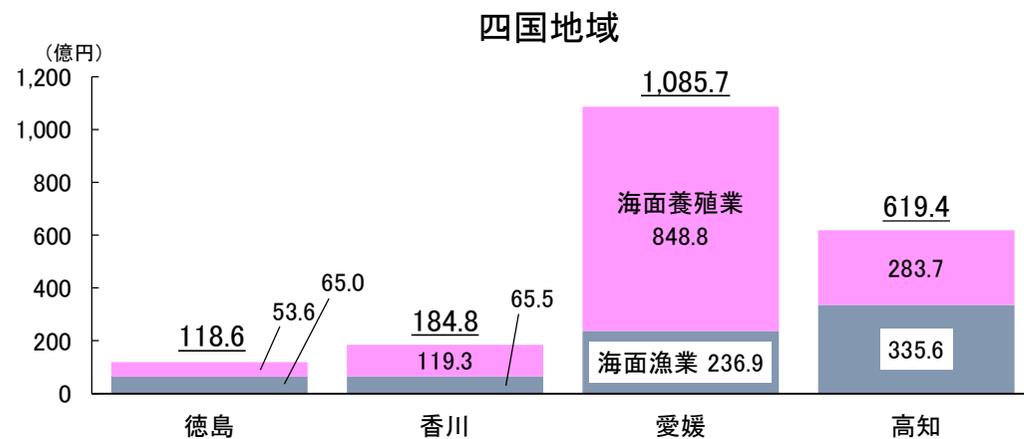
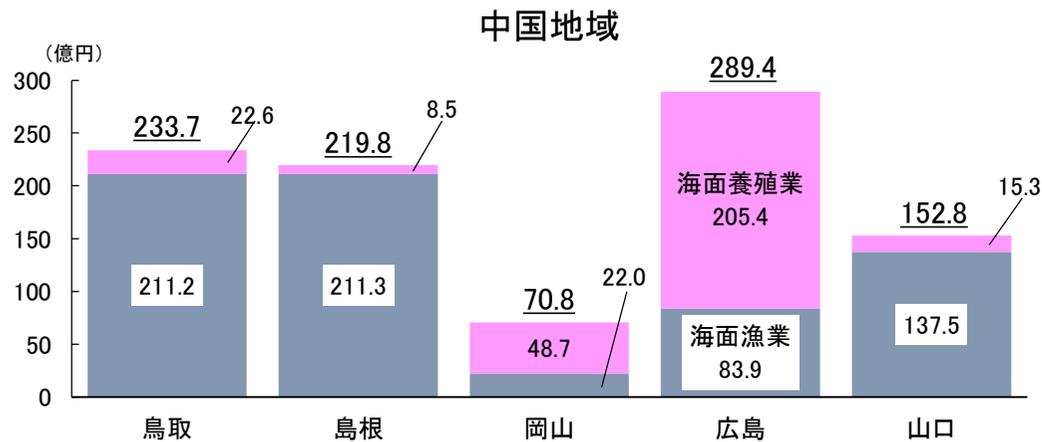


## F 水産業編

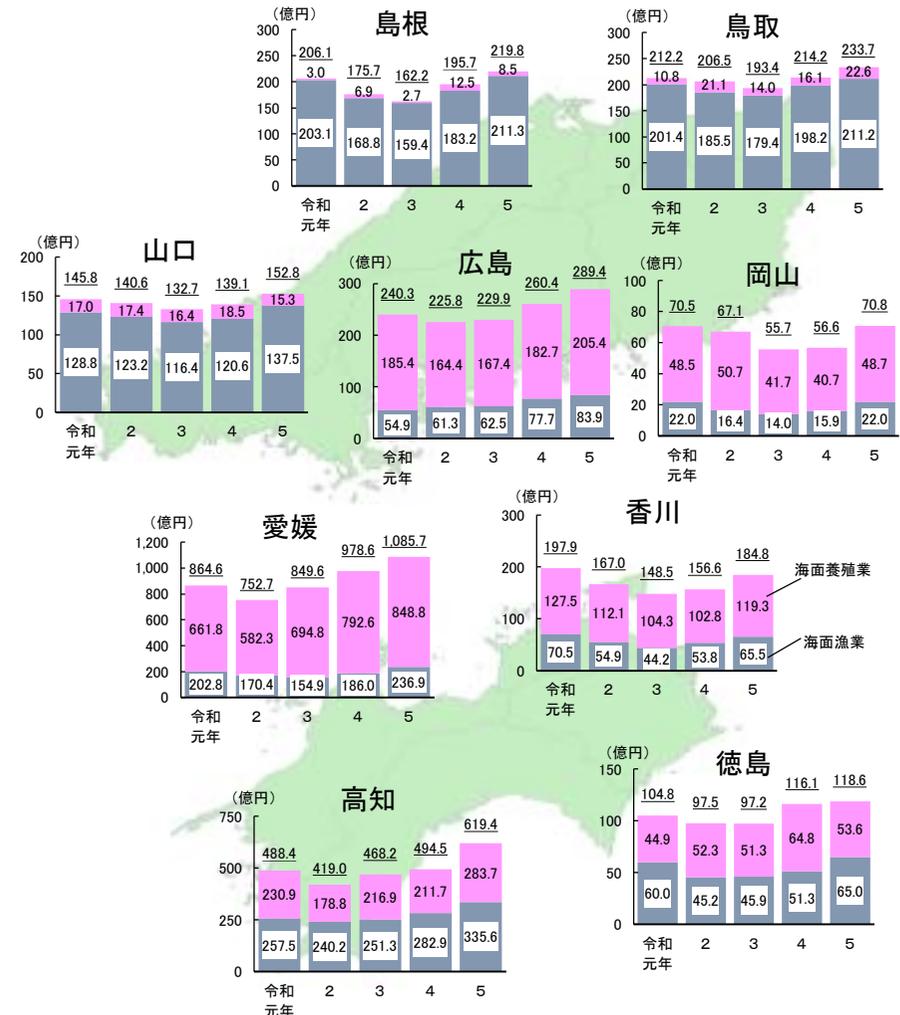
# 漁業産出額（海面漁業・海面養殖業）

漁業産出額は、中国地域では広島県、四国地域では愛媛県が高く、ともに海面養殖業が盛んです。  
中国四国各県の漁業産出額の推移をみると、全般に令和2年・3年頃は減少していましたが、その後は増加傾向で推移しています。

各県の漁業産出額(令和5年)



各県の漁業産出額の推移



## F 水産業編

# 漁業生産量（海面漁業・海面養殖業）

中国地域の漁業生産量は、鳥取県、島根県では「まいわし」、岡山県、広島県では「かき類(養)」、山口県では「かたくちいわし」が多くなっています。四国地域の漁業生産量は、徳島県では「わかめ類(養)」、香川県では「かたくちいわし」、愛媛県では「まだい(養)」、高知県では「かつお」が多くなっています。

各県の主要魚種における漁業生産量(令和5年)

島根県		生産量: 102,795 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	まいわし	36,912 t	7位
2	さば類	20,146 t	3位
3	うるめいわし	13,741 t	2位
4	まあじ	11,298 t	2位
5	ぶり類	6,059 t	4位
6	べにずわいがに	2,509 t	1位
7	かれい類	1,422 t	4位
8	きだい	815 t	2位
9	さわら類	693 t	4位
10	まだい	485 t	8位

鳥取県		生産量: 102,302 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	まいわし	60,550 t	3位
2	さば類	10,550 t	9位
3	かつお	8,893 t	10位
4	まあじ	2,616 t	8位
5	かれい類	2,583 t	2位
6	べにずわいがに	2,190 t	2位
7	きはだ	2,145 t	11位
8	うるめいわし	2,116 t	9位
9	ぶり類	1,825 t	13位
10	むろあじ類	1,104 t	6位

愛媛県		生産量: 136,571 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	まだい(養)	37,893 t	1位
2	まいわし	14,874 t	11位
3	ぶり(養)	13,855 t	2位
4	さば類	12,990 t	7位
5	かたくちいわし	12,222 t	4位
6	うるめいわし	7,817 t	4位
7	ぶり類	3,748 t	7位
8	まあじ	2,837 t	5位
9	しまあじ(養)	2,524 t	1位
10	かんばち(養)	2,389 t	2位
※	真珠(養)	3,673 kg	2位

香川県		生産量: 29,361 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	かたくちいわし	8,580 t	6位
2	くろのり(養)	8,448 t	6位
3	ぶり(養)	4,579 t	7位
4	かんばち(養)	1,461 t	4位
5	かき類(養)	794 t	11位
6	まだい	644 t	6位
7	しらす	570 t	17位
8	いかなご	452 t	2位
9	まだい(養)	344 t	11位
10	さわら類	319 t	10位

山口県		生産量: 24,912 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	かたくちいわし	4,622 t	9位
2	まいわし	2,901 t	18位
3	さば類	2,295 t	20位
4	まあじ	1,909 t	11位
5	ぶり類	1,667 t	15位
6	まだい	657 t	5位
7	きだい	646 t	3位
8	なまこ類	578 t	3位
9	かれい類	521 t	11位
10	さわら類	482 t	7位

広島県		生産量: 111,088 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	かき類(養)	89,192 t	1位
2	かたくちいわし	14,810 t	2位
3	くろのり(養)	2,629 t	11位
4	しらす	1,441 t	10位
5	まだい	437 t	11位
6	ぶり類	184 t	31位
7	たこ類	150 t	16位
8	わかめ類(養)	146 t	10位
9	くろだい	119 t	6位
10	すずき類	83 t	20位

岡山県		生産量: 19,804 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	かき類(養)	11,557 t	3位
2	くろのり(養)	4,983 t	8位
3	しらす	991 t	12位
4	まだい	385 t	13位
5	くろだい	180 t	4位
6	たこ類	118 t	19位
7	いかなご	116 t	4位
8	なまこ類	76 t	17位
9	ばらのり(養)	75 t	9位
10	かれい類	60 t	28位

高知県		生産量: 79,738 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	かつお	16,699 t	3位
2	ぶり(養)	8,652 t	6位
3	まだい(養)	7,775 t	3位
4	びんなが	7,378 t	2位
5	そうだがつお類	4,476 t	1位
6	うるめいわし	3,728 t	5位
7	めばち	3,526 t	3位
8	きはだ	3,510 t	6位
9	さば類	3,072 t	18位
10	まあじ	2,358 t	9位

徳島県		生産量: 17,850 t	
魚種	生産量	全国順位	
1	わかめ類(養)	3,713 t	3位
2	ぶり(養)	3,298 t	9位
3	しらす	2,881 t	6位
4	くろのり(養)	740 t	13位
5	さめ類	663 t	8位
6	かつお	660 t	17位
7	ぶり類	655 t	25位
8	びんなが	468 t	14位
9	かたくちいわし	409 t	17位
10	かんばち(養)	344 t	7位

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

注：（養）は海面養殖業による生産量であることを表しています。